

【コンサドーレ札幌 サポーターズ集会2007 公式議事録】

斎藤(以下司会): それでは時間です。受付係の方、後ろの扉を一旦お閉め願います。本日は雪が降っていて足下の悪い中、これだけたくさんのサポーターにお集まり頂きまして誠にありがとうございます。只今よりサポーターズ集会2007を開催させていただきます。まず初めに、私共の方からご挨拶をかねて、二、三お話をさせていただきます。昨年まで、ちえりあでした会場が、コンベンションセンターに変わった理由に関して。ちえりあで担当の方が替わったことにより、カンパ等の資金を集めることが完全に禁止になりました。去年も集まったカンパを没収するという話まで発展し、非常に問題が大きくなる可能性がありやむを得ず。こちらはカンパを集めても一切関与しない会場で、そういう意味合いで変えさせていただいた。それと、ちえりあの場合3ヶ月前の11月1日または第1営業日に(会場)抽選なんですが、ここは6ヶ月前に抽選があります。準備に早く着手出来るというメリットがあるという事です。今年は実現しなかったんですが、また来年はどうかという事もあります。2年位前からホームのサポーターだけではなくアウェイのサポーターにもサポーターズ集会を中継出来ないかと。会場を予約する段階では詳細が詰まっていなかったが、とりあえず国際会議の対応が出来る回線が入っている会議場をという事で、今の三つの条件でこちらを選定することになりました。地下鉄駅から歩く距離が前よりも長くなり、ご迷惑はかけるとは思いますが、そのようなことで国際会議場を借りました。アウェイのサポーターにもテレビ会議で二元中継をしようと画策はしたんですが、最終的にはできなかった。見積もりをとり、検討は進めました。



司会: 双方向のテレビ会議ですと一番安い業者さんで51万円プラス回線使用料で60万位かかる。双方向の電話音声のみの会議の場合には161,600円プラス回線使用料で20万円位かかるという事で諦めました。インターネットを使えばもっと安く出来るだろうなどいろんなアイデアもあると思いますが、HFCさんから株主総会前のオフレコな情報もサポーターにダイレクトにお届けしたいという事で、あまりオープンな回線ではサポーターズ集会を中継して欲しくないというご要望もありました。クローズドな回線を使用するとこのようなお金がかかりますが、関東近郊のサポーターにも一緒に参加して頂ける方法はないか、今後も模索はしていきたいと思います。来年すぐ実施出来るというものでもないですが、そういった動きをしています。いろんなサポーターがいらっしゃるんで、任せてくれればもっと安く出来るよという事がありましたら言っていただければ助かります。それと質問表の記載に関して。事前に質問票をシースペースの質問箱に入れて頂きました。投入枚数で74枚、74件ありました。ただ非常に残念なんです、ここ数年特にコンサドーレ札幌を誹謗中傷するような投函が増えております。それらは完全に無視をさせて頂きました。というのは偽名であろうが本名であろうが、名前の記載もない匿名に関しては取り扱いをしないという大原則がありますので無視させて頂き、あとは重複等を集約しますと実質有効件数は33件。ただこの中にも上からの目線でHFCを詰問したり断罪するような内容の文章がありました。基本的に我々が持っているスタンスは、グッズを買ったり試合を見に行ったり、応援という手段を通じてチームを支えるサポーター。で、HFC役員または社員の方は直接的にお金の管理や運営面でコンサドーレ札幌を支えるという事で、大きな括りでいきますとある意味仲間であると。その仲間を誹謗中傷したり断罪するような質問表の記入の仕方は大人としての礼を失しているのではないかと思いますので、お願いなのですが、来年から質問票を記入頂く方はその辺のニュアンスもお酌み取り頂き、分からないものやこれについて訊きたいので答えて欲しいという書き方にさせて頂くと非常に助かります。中には「これについて答えろっ!」「これはどうなってるんだっ!」という内容の文章がありますので、読んでいても非常に不快を感じるものがありました。今、会場で記入されてる方もいらっしゃると思いますが、HFCとサポーターは対峙して争い合うものではございません。広い括りの中ではコンサドーレ札幌というチームで、スポーツ文化を支える仲間なんだという視点でお書きいただければ助かります。最後になりましたけども我々のスタッフをご紹介しますので、スタッフの方は名前を呼ばれたら立って一礼をお願いします。1名この場にはおりませんが、今回全部で18名。まず会場系の山崎さんです。続いて高森さん、久保さん、根田さん、松本さんの奥さん、旦那さん。それと鎌田さん、熊野さん、渡辺恵子さん・・・、はい、後ろにいます。受付係で山崎由里ちゃん、松村眞由美さん、齋藤さん。こちらにいます本間さんと平松さん、中川さん。たまたま私が代表して喋ってはおりますが、メンバーが事前の準備、プログラムを作ったり、毎年そうですがこのあとテープ起こしという作業から議事録までたくさんのサポーターの善意で、いろんなところで支えていただいているので出来るとお考えください。では来賓でございます株式会社北海道フットボールクラブ代表取締役社長児玉芳明様からご挨拶を頂戴いたします。よろしくお願いいたします。

児玉社長(以下児玉): 皆さんこんにちは、児玉でございます。出席者をまず紹介させていただきます。常務の門脇でございます。それから取締役の佐藤です。それと強化部長の三上です。一昨日まで熊本にありまして、昨日帰ってまいりました。今日直接チームの状況を話してもらおうと思って出席

してもらいました。それと運営部長の石井が同席しております。そのほか三谷がどこかにいる筈なんです、よろしくお願いいたします。今、齋藤さんから大変温かいお言葉を頂き心強く思っております。私共、皆様方と一緒にコンサドーレを強くして、北海道のスポーツを、そして子供達の育成と、素晴らしい北海道にしていきたいと思っている仲間でございます。どうか、そういう立場からご支援いただければ大変ありがたい。そして率直にHFCの状況をお話し、さらなるご支援をいただければ大変ありがたいと思っております。私の家は荒井山の上の方にあるんですけども、荒井山のグレンデを見ましたら少年ジャンプ交流体験会をやっている。これは今までやってなかった。いろんなスポーツの団体が新しい試みをやっているという思いがいたしました。また、ノルディックのワールドカップも開会式がどうやら満席になりそうだという心強い報道もございました。北海道全体がスポーツによってどんどんどんどん活気づけられてきている。その一端を担っておりますコンサドーレは、もっともっと元気にならなければいけないという思いをしたところです。昨年リーグ戦は6位と大変不本意な成績に終わり、皆様方にご迷惑をおかけし、昨年の今頃は3位以内、J1昇格というお話をさせていただいたにもかかわらず、この結果になったことをまずお詫び申し上げなければいけないと思っております。ただ、年末の天皇杯3位という成績。これは私共誇っていい結果だと思っております。私は全部の試合を見てきましたけども、千葉の2試合そして仙台、エコパ、どこもコンサドーレのサポーターが相手チームを圧倒していました。数だけではなく声援の大きさ、そして断幕。いろんな形で相手チームを圧倒していて、相手チームの社長あるいは監督からコンサドーレは凄いなと言って頂きました。本当に誇らしく思っております。選手が3位までなれたのも皆様方のそういった応援のおかげと思っております、心から感謝申し上げます。ただ残念ながら(リーグ戦は)6位という成績。そして様々な原因があり経営的には非常に厳しい状況を昨年は迎えました。3位以内、J1昇格を掲げて強化費を1億円増やし、観客動員が増えるだろうと見込んで観客動員収入を大幅にアップ。それで強化費に充てたという事もございました。しかし残念ながら6位という成績が低迷したことにも因るんでしょうが、観客動員が当初の見込みより大幅に狂い、4億9千万円を予想してた収入が3億6千万から7千万円にとどまってしまったと。毎年毎年平均単価が落ち込んできている。2006年は観客動員総体では25万人を超えたんですけども、2004年が平均単価1,800円、そして2005年が1,600円、そして昨年が1,400円強というところで、ほぼ毎年200円ずつ落としてきてます。様々な原因については後から常務から報告があると思いますけれども、結局観客動員、興行収入減という形になって現れてまいりました。広告収入は目標には届かなかったものの前年比で10数%アップの二桁アップで寄与しましたけども、結局はマイナスをカバーするところまでいかなかった。10年史の発行、様々なグッズの売り上げ、サッカースクールとか食育とか様々な収入を勘案しても結局はカバーしきれず、まだ精査中ですけど1億4千万円強の単年度赤字を2006年度に出すことになり、大変申し訳ないと思っている次第でございます。何といたってもこれを挽回し、2007年度は単年度の黒字を成し遂げたいというふうに思っております、チーム方にも随分無理を言っております。この後2008年問題もでございます。道庁からサッカー協会を通じて入ってきておりました5億円のサッカー基金は本年度で終わりになりますし、札幌市からの借入金も返済を迫られる事態に間もなくなってまいります。こういった事態をどう回避しながらコンサドーレを永続的に続けていくか、さらに強めて北海道民の宝として大きくしていくかが、やはり今年度のいろんな努力にかかってくるかなと思っております。現在予算を編

成中ですが、昨年よりも1億円近い強化費減。選手にも20%から25%減という厳しいことを要求いたしまして、何とか今年度黒字を達成したいというふうに思っております。これまでのコンサドーレの歴史、この10年間を見てまいりますと1996年から1999年まで、4ヶ年で26億円の赤字を出したんですね。1996年が8億円、97年が10億円、さらに98年が6億9千万円、1999年が2億円近い数字で、結局は26億円近い累積債務を抱えた。1999年にJ2で、2000年にJ2優勝。2001年、2002年はJ1で戦いました。この3ヶ年だけが黒字決算をもたらしたんです。観客動員もそれに伴って増えている。この3ヶ年の経験を鑑みますと、何としても今年J1昇格を目指したい。それが北海道フットボールクラブそしてコンサドーレを永続的にしていくための一番の目標だと思っております。ですからJ1昇格。スローガンもパワー・トゥ・ワンと掲げました。何としてもJ1昇格を目指したいというふうに思っております。何とか、これをやっていきたい。ただ、これは勝負の世界ですから必ずしもJ1に上がれると楽観はできません。最大限努力しても上がれなかった場合のことも常に考えており、現在監査法人のトーマツさん、あるいは様々なところと打ち合わせをしながら2008年問題をどうやってクリアしていくのか。そしてその後の経営をどうやっていくか、過去1年間そして最近もずっと話し合いを続けながらやってきております。悲観的な材料ばかりではございません。私共がやってきてることについて理解はどんどんどんどん深まっておりますし、コンサドーレは必ず生き延びると思っており、それについては確信を持っています。道庁そして札幌市からの補助金、札幌市は今9千万円ですが、この後どうなるか分かりません。サッカー基金の1億円がなくなって札幌市(からの補助金)だけが残るという可能性もあるでしょうし、あるいは減額して残して貰えるという可能性もあります。ただ両方なくなった場合にどうやったらいいいのかという事もシュミレーションとしてございます。私たちの今の経営状態でいけば興行収入4億円、そして広告収入4億円。その他Jリーグの分配金、グッズ販売などを合わせるとほぼ4億円。4億円、4億円、4億円です。これは少なく見積もっての12億円です。この12億円でコンサドーレを運営していくという事を考えれば会社は存続できますし、チームも存続出来る。身の丈にあった経営、最悪の場合にはそういうことでやっていきたいと思っておりますのでチームは生き延びることが出来ると思っております。甲府が一昨年に6億円規模でJ1に上がりました。水戸、草津あるいは山形の財政規模を見て、私共が12億円によってどういうチームを作っていけるのか。皆様方が満足出来るような補強は多分出来ないかもしれませんが身の丈に合った、12億円に合った支出でバランスをとっていくという事で、当面は切り抜けていけるというふうに考えています。2008年に補助金が無くなればコンサドーレが消えるんじゃないかというご懸念はあるかも知れませんが、絶対そういうことにはならないと考えておりますので、その点については是非ご安心頂きたいと思っております。道庁の5億円の返済、それから札幌市から毎年毎年5億円を繰り延べしながらお借りしてます。この返済についても現在事務レベルで話し合いを進めております。今年は知事選、札幌市長選その他があって、なかなか具体化が進まない状態ではございますけども、この後の話し合い如何によって決して悪い方向ばかりにいくとは思いませんので、是非皆様方の声も道政あるいは市政に反映していただいて、コンサドーレの応援に繋がれば大変ありがたいと思っています。課題は今年、来年にございますが、私共が一昨年からはじめております全道でのサッカー教室、食育教室、その他様々なことをやってまいりました。Fu's(フッズ)ではリュージュとかスキーとか、子供達を対象にした総合クラブ作りを丹念にやってまいりました。函館でのサッカースクー

ルの開催、それから岩見沢。近くは釧路でもサッカースクールを展開して底辺拡大をどんどん図ってきております。さらに小学校のプログラムに心のプロジェクトという形で子供達を支援する運動を進めておりますし、子供達以外にも介護予防の観点から、今年は何とか元気なシニアをより元気にしていくためのプログラムを作っていきたい。道民のために、市民のためにコンサドーレが持つて力を還元する。コンサドーレの意味合いが道民のもの、市民のものという理解が深まることによって必ず評価され、それがファンの拡大、そして自治体からの支援に結びついていければ大変いいと思っております。微力ですけども私共スタッフ一同で全力を尽くしてやっておりますので、是非その辺をご理解いただければ大変ありがたいと思います。具体的なことは、このあと門脇常務それから佐藤、私も補足いたします。多分皆さん方が一番知りたいのは、熊本でどうなんだという事ではないかと思います。ちょうど三上が来ておりますので、合宿の状況、今年どうなのかというのを三上から説明させたいと思います。選手が合宿中に1回2回、札幌に帰ってくるのが慣例だったんですけども、交通費を節約するために大変申し訳ないんですけど帰していません。このことによって1千万円強の削減に繋がっております。そんな努力をしながら、そして選手には辛い思いも耐えて貰いながらやっております。その辺の状況も含め三上から説明させたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

三上強化部長(以下三上):こんにち、強化部の三上です。よろしくお願いいたします。今日このような形で皆様方とお話し出来ることを嬉しく思っています。チームの方で取り組んでいる状況等々、簡単ではありますがもお話し出来ればとこの場に立たせて頂きました。キャンプが始まる前に一番大きな課題として、監督・スタッフが変わる中、今いる選手の特徴をまず掴んでもらいたい。その上でストロングポイント、昨年までの課題、選手の課題、これらを冷静に見極めた上でチームとしての課題である組織立った守備の構築をいかにすれば可能になるのかということを中心としてキャンプ当初、始まる前に監督及びコーチ陣に強化(部)から、大切にやって欲しいと話させてもらいました。それに沿って監督コーチ陣から、トレーニングメニュー及び沖縄キャンプから熊本キャンプの大体の内容などの報告を受けました。まず第一段階として選手の特徴を把握するためのトレーニング。その後、把握した課題が本当にその通りなのかを試すゲームを3試合ほど、熊本キャンプの中盤までに組んでもらいたいという要望で、強化(部)としては動きました。皆さんご存じのとおり2月3日、7日、9日と、トレーニングゲームをしてきた訳ですが、この時現場からはより強い相手をと。熊本で合宿してるんですが、2時間3時間かけて(移動をして)でも格上と思われる相手とやることによって、その課題または持ってる武器を再認識することが出来ると。それに沿った形で3日川崎フロンターレ、7日には韓国の城南一和、9日に水原三星とやらせてもらいました。川崎フロンターレは昨年J1でも立派な成績を残し、今年度アジアを目指している。韓国の2チームも、城南一和は昨年のKリーグチャンピオン、水原三星もここ4、5年ずっとKリーグで上位、優勝争いをしているチームで、一応現場のニーズに応える形で組むことができました。選手に現場からは、普段のトレーニングから具体的な指示よりもまず自分たちの思うようなプレーをしなさいと。これに対して選手の方は正直ちょっと戸惑いながらやっていたのかなと、僕が外から見ていて感じました。いろいろな選手の話の聞くと当初、最初からこういう形でサッカーをやるんでこういう動きをしてくれと、監督コーチ陣から要求されるのかなというイメージがあったようです。ただ実際は自分たちの思うようにトレ

ーニングからやってくださいと。その中で、みんな(選手)の課題、チームとしての課題、チームの強いところ、みんなの強いところを把握した上でチームとしてやる方向を導き出していきたいと。地元の新聞報道によりますと、特に沖縄合宿ではゾーンディフェンスとか、ディフェンスを主軸に置いたトレーニングという形で書かれていたと思うんですが、こういう規則の中でやってくれという事ではなく実は結構自由にトレーニングを積んできました。沖縄キャンプを終えて、監督からある程度こういった感じだよねと選手個々の特徴報告を受けまして。コーチの松井が昨年から引き続き居るという事もあり、各選手の特徴及びチームのストロングポイント及びウィークポイントについて強化部の認識とそんなに変わらなかった。具体的課題は、やはり昨年ディフェンスはセットプレーからの失点およびワイドからの攻撃に完全にやられ失点を繰り返していたと。今のサッカーでは通常、セットプレーからの3割から4割が得点チャンスになると言われています。昨年コンサドーレは、実は4割強の失点があります。もう一つ、流れの中での失点というのは、3本以内のパスの中でのゴールが今世界的にも多い。残念ながらうちは3本以上繋がれた上での失点も非常に多くて、それはやはり大きな課題だろうと。世界一般的データ以上に何故そういう形で失点したのかに関しては、個々の能力、戦い方、システムであると考えました。まず次の日のトレーニングからサイドを絶対破られないこと、1対1で負けないこと、そしてセカンドボールを絶対取ること。この3つだけを選手に強調したトレーニングをさせて貰いました。4対2のボール回し、4対4、5対4、6対6のゲーム、10対10のゲーム全てにおいてサイドを破られないこと、1対1で負けないこと、セカンドボールを必ず奪うこと。この3つを徹底してやった結果、白熱した中でトレーニングし、1対1の強さとか執着心もピッチの中で非常に見れるようになってきたと思っております。そこまでやってきた中で、4 - 4 - 2を基本ベースでやっていこうという事にしました。コンサドーレ札幌の歴史でいいますと今まで3 - 5 - 2がベース。僕自身もそうですけどサポーターの方からしましたら4 - 4 - 2でなかなか結果が出なかった過去の経験もありますので、踏み切るのには非常に。ただ、選手の良いところを活かしチームの課題を消すという事でいうと、全てがシステムではありませんし、システムだけで勝てるものではない。重々承知の上で4 - 4 - 2というまずオーソドックスなシステムからトライしていこう。ただ完成形が4 - 4 - 2であるという事では決してないです。あくまでも現時点で選手の特徴を踏まえチームのストロングポイントを活かし、弱点を克服する。それは4 - 4 - 2から入っていくのが一番選手に浸透しやすく、そして選手に結果、自信を持たすことが出来るのではという事から、このシステムをまずベースとしてキャンプ中盤以降に取り組んでいこうと監督と話し合い、決めていきました。今の4 - 4 - 2は基本的に最終ライン、中盤ラインがフラットに並んだ形でやっています。しかし選手にも決してこれが完成形ではなく、柔軟性を持ったチーム作りをしたい中で相手の良さを消すためにやることもある。自分たちの持ってる特長を活かすことも、システムによっては必要と思っていると。トレーニングとしてベース4 - 4 - 2で入っていくが、今後相手や自分たちのストロングポイントがはっきりし、それが本当に武器となると確信した場合には4 - 3 - 3、4 - 4 - 2でもボックス形とか、色々なことをトライしていきたいと思っている。そういうことも選手に伝えました。2月5日だったと思いますが、今季初めての会議室を使ったチームミーティングを行いました。今まではピッチの上で全てこういう形で考えていますよという事を選手も現場に伝え、現場も選手に伝えていた。ピッチの中では当然ですが、監督も変わり、また色々な課題をきちんと伝え一つ一つクリアしていくためにも会話という部分で場所を作ってやっていこう、はっきりさせていこうと。

ミーティングは開幕までの合宿の中で、あと最低2回はやりたいと思っていました、チームにもそれを伝えてます。で、第1回目が2月5日だったと思います。その時には、まず自分たちの持っている課題は何だったのか、その課題を克服するためにはどういったものが必要なのかと。選手の方として、自分はこういったポジションで求められているのか、どうすればチームのために力を出せるのか。個々の質問に関しては個別に、監督中心に全員と面談し、全てクリアにしていく中で日々のトレーニングを積んでいこうと。戦術的な問題が多いので詳しくお話し出来ない部分もあるんですが、大雑把にお話ししますとディフェンスもリアクションではなく、アクションを起こせと。守備の仕方としては、まず前で取れる時には積極的にボールを取ろう。出来ない時は一度セットし、その中で相手にボールを出させる。出させるところを作った上でボールを奪う。いずれにせよ全てアクションが第一だという事をミーティングで強く言っています。4 - 4 - 2でやるとどんな状況でも一度引いて守って、そこからカウンターというイメージを持たれる方もいると思うんですが、勘違いしてもらいたくないのは、今私共がやっているのはメリハリをつけて行ける時は前から行く。相手が良い体制だと判断した場合には一度引いてやる。まず使い分けをするという事。4 - 4 - 2でリトリートした場合に、相手のパスで始めてそれに対応する引きこもり戦術(ではなく)、一度引いたとしても前線からの追い込み、フォアチェック等々をしてあえて出させる。出させたところを最終ラインと特に中盤の選手が挟んでボールを奪うという事をトレーニングからやっておりますし、それをミーティングではっきりと伝えました。それがまず選手の中でクリアに出来た大きな一つの部分ではないかと思っています。もう一つ、攻撃に関して。攻撃的なトレーニングにはまだ入っていない段階ですが、どんどん飛び越してリスクを恐れず前掛かりにやって構わないと。ミスはもう仕方がない。ただ、それをチーム全体で埋めるよう皆で努力していこうと。特にクロスに対して、中は一人二人では全然話にならない。最低3人だと。出来るのであれば4人目に入ってもらいたい。スライドを見せながら、こういったものが課題で、こういったものを目指しているという事を監督から選手に伝えました。次の日の練習からトレーニングの質がもう一歩上がったように感じております。沖縄(キャンプ)にかけて若干の怪我人が出てちょっと心配ではあったんですけど、チーム練習を外れていた芳賀選手、西澤選手も戦列に復帰し、現在は大塚選手と川崎選手が一部別メニューの状況です。何よりもびっくりしたのが、ここ数年必ず風邪で倒れる選手が多いんですけど、良い緊張感があるのか、選手が自主性を持ってきたことが実になっているのか、プロの生活をピッチ外でも出来ているのか、結果として風邪などもひかず順調にメニューをこなしています。うちのサポーターの方なのかなと思われる方も何人かグラウンドでお見かけします。先程お話ししたトレーニングゲーム。普段のトレーニングの中で出来つつあるものが、強豪相手に出来るのか出来ないのか。自分たちが出来ると思っていたことが通用するものなのかどうか。そこを認識出来るいい機会という事でやらさせて頂きました。結果はメディアを通してご存じかと思うんですが、フロンターレ戦は非常に良いゲームが出来た。狙いある守備がまず出来た。もう一つ、6割は前から行けた。A B合わせて2対2の引き分けですけども、ゲームを見て改めて昨年までやってきたことと今年やろうとしていることは間違いではなかったのかなと。試合が荒れた、フアンシスマールが大きな怪我をしたと報道であったと思います。怪我に関しては決してうちも故意ではなく、ゲームの流れでやってしまった。怪我に対しては申し訳ないと思いましたが、向こうの強化責任者にも電話を入れました。うちの監督も先方の関塚監督に電話を入れました。向こうも悪意があったプレーではないという事は認識していま

したので、それに対して全然問題はない。ただ、いろいろ話した中ですごくイエローなど飛び交った。僕から見て、川崎フロンターレは自分たちのサッカーが一切できなかった。非常にイライラした中で事あるごとに判定に異議を申し立て、スッキリしないまま彼らも交代し、その気持ちのままベンチで見学してるところでまた同じような現象が起きて、控えている時に退場になったりと。それが原因ではないかと思っています。自分たちがやってきたサッカーは、アジアを目指そうとしているチームにもある程度成果として出たのではと感じています。ただ、すごく大きな課題が一つこのゲームで浮き彫りになりまして。左に西嶋、右に池内、4バックで初めてやったゲームだったからサイドから1対1で負けて崩される。昨年まで3バックでやってたという事で、どうしても中を重点的にケアをしようという意識が強く見られ。そこはセンターバックのブルーノと曽田に任せれば良いところをカバーの意識が強い。良くいうとチームのために考えているとも思うんですが、やろうとしているサッカーでは、まず自分のゾーンを責任持つことを主にやっている。そういった意味でちょっと中に絞りすぎ。うちの右サイドでボールコントロールされて、一気に左に長いパスが出た時に対応にちょっと遅れてしまう。これにつきましてもビデオでこの場面はこうだよねと選手にし、次のトレーニングから改善していこうという事で、このゲームを終えました。7日の城南一和は僕自身凄くびっくりしたというかショックを受けまして、非常に強いチームでした。僕たちも今年度J2を制覇し、J1で安定した戦いをし、そして優勝争いをするチームを作っていこうという中で、こういうチームがアジアで戦えて、また自分たちの目指しているようなサッカーが出来るんだと。簡単に言いますと強くて、速くて、上手い。3拍子揃っている。うちにとっては逆に非常にいいゲームでした。ただそういった相手にも、Aチーム45分、Bチーム45分で、前半1対1、後半3対3。何とかトータル4対4。強いチームとやることによってフィジカルの問題点などが凄く出たゲームでした。3日のゲームでの大きな反省点、両サイドバックの中への絞りすぎは修正出来たと思っています。強いチームから点を取れたことは良かったが、守備のちょっとしたミスから1点取られた。昨年もミスからの失点が多くあったので、まだまだ意識したトレーニングが必要ではないかと思っております。このゲームで監督から戦える選手とまだ戦えない選手がはっきりしてきたと。戦えなかった選手とは気持的に弱いと言うことではなく、プロに入って1年目、2年目の選手。要するに身体作りをしている途中の選手で、決してプロとして戦う意識がないなどといったことではないので勘違いしないで頂ければと思います。で、この日の課題はセットプレーの守備。大きく二つあり、一つは直接ゴールを狙えるようなファール等からあるリスタートの守備。失点は喰らわなかったけれども前半だけで3本ほどやられてもおかしくないようなシーンがありました。まだトレーニングでセットプレーの守備を行っていませんので、この時点で課題が出るのは仕方ないですけれども、問題は大きいという事を再認識出来た。もう一つ、前回のゲームでは出なかった課題。相手のスローイングから簡単にマークを外し、簡単に前を振り向かれて危険なシーンに至るという事が多々ありました。ゲームが終わった時はまだ整理がつかず、何でなんだろうと。その後監督コーチ陣と一緒にゲーム映像を見直すと、スローイングの時など中途半端な位置で相手にポジションを取られた場合、やはりみんなゾーンに主を置いてゲームをやっている。要するにうちのセンターバックとボランチの間、縦と横の間あいだに入られた時にゾーンの意識が強く、スローイングの時からマークにつくのかポジションを離れてはいけないのかの判断でかなりピンチを迎えていた。改めて選手全員に対して、ゾーンを主としてやるがマンツーマンの場合もあると。スローイング等に関してはマンツーマンだし、前からプレスをか

ける時も同じくマンツーマンになると。ただ、日本のJ2でやっていく中では90分中6割から7割はゾーンでの守備になるだろうと。でも相手のスローイングまたは自分たちが積極的にボールを取りに行ってる時はマンマークになる。その切り替えをはっきりさせようと選手に話をしました。試合のシチュエーションにおいては当然4 - 4 - 2システム及びゾーンディフェンスも変わる可能性があります。選手には、負けてる時などはゾーンも何もあったもんじゃない。マンマークで前から前からやって、何としてでも同点、逆転するんだという事は今から意識しておいてくれと。ただ、ベースとして4 - 4 - 2とゾーンディフェンスがあることをもう一度確認しようという事で、選手の方も理解が一つ深まったと思っています。それを受けて9日、水原三星という韓国の同じく強豪チームとゲームやらせて頂きました。城南一和がショックを受ける位凄く強いチームだったんで水原三星もその位のレベルだったらいいなと思っていたんですけれど、強さはあったんですが、速さ、上手さという部分では城南一和の方が一つ上かなという印象を受けました。同じようなレベル(のチーム)と出来、非常に面白い展開のゲーム内容だったと思っています。監督、コーチは戦術がどこまで浸透しているのか、まずこのゲームを一つの線引きにしようと思いました。もう一つは、キャンプ当初で自分たちが考えた選手のストロングポイント、ウィークポイント、チームの課題がその通りなのかどうか。セットプレーの守備で今回もゴールを取られてしまい、引き続き大きな課題だと思いました。前半は残念ながら昨年までやってきた攻撃が一切出なかった。守備的練習をメインにやっているのは理解してるんですが、何のために3年間、前監督の柳下さんをお願いしてチーム作りをしてきたのかと。ポゼッションを高めながら積極的に動いた攻撃を前の2試合は出来ていたのに。ハーフタイムに監督からも、何をやってる！ 守備において約束事ができてはいるけれど攻撃は何にもなっていない。確かに練習はしていないが、こんな事しか出来ないチームじゃないだろう。どんどんアグレッシブにやんなさいと。その言葉で後半見違えるような攻撃が出来ました。上手く伝わらないかも知れないんですが、ここまで守備的な練習、ミーティングでも一つ一つ守備的課題をクリアしていく内容が多く、本当に課題を克服出来ているのかどうかを選手自身も確認したいと思う気持ちが守備的になったと。ディフェンスの曽田やブルーノにしたら、意識してラインを下げたという事でした。それはそれで大切なことですが、このゲームにおいての大きな課題は今までやってきたディフェンスの使い分けを含めた中で、攻撃も昨年までやってきたことを自信を持って主体的にやろうと始めたゲーム。監督の言葉もあって後半逆転する事も出来ました。昨年よりサイド攻撃が増えるかなと。ゴールに入るかは別としてサイドボールに対して最低3人、殆どのケースは4人がペナルティエリアの中に入っているという感じです。ここまでやって来た3年間、そして今トライしている事が少しずつ融合しつつあるのではと。ゴール前での迫力はきっと喜んで貰え、興奮出来るシーンが見れるのではないかと思います。今後も精度を高めてやって行きたいと思っています。また、雰囲気も非常にいい。監督があんなに怒るのかと思う位ピッチの中ではピリピリしたものがありますが、練習後はここ数年なかったバーベキュー大会などいろんな形でリフレッシュもし、メリハリがすごく効いた毎日を送っています。順調に来ているせいか、選手にも話を聞くといつもだったら長く感じる合宿がそんなに長く感じない。確かに心身ともに疲れてはいるけど一日一日がすごく早く感じると。何よりも今チームが向かおうとしている事が、やろうとしている事が解ると一人一人が言ってくれています。ただ、監督としては課題に目がいくようで、克服するのに開幕までどれだけ出来るんだろうか、今後効率良いトレーニングをどうやって行くかと頭を抱えていました。一昨日の

夜、この会もあるんで一度札幌に戻りますけど監督もオフなんでリラックスしてくださいと話したんですけど、監督の方はそれどころではなく、今後のトレーニングメニューを作成するので一杯だと。僕も申し訳無いとは思ったんですが宜しく願いしますと言っただけ言って帰って来ました。実は僕の中の一番大切なテーマとしてこの合宿この一年でやって行こうと思っていたのは、選手・スタッフ・皆さん方全て含め一つになってやって行けるのかどうか。細かく言うと戦術、チームの方向性、クラブの方向性、皆さんを含めた北海道のスポーツ文化。そういったもの全てにおいてそう思っています。一番肝心の根元である選手、監督、スタッフが一つにならなければその先は無いのも分かっています。目標を達成出来るか出来ないかは当然結果。勝負の世界は相手があることなので何とも言えない部分はありますが、一番大切に思っていた一つになって目標に向かってやっていくという姿勢はすごく感じられる合宿をここまで送れています。ここまでがトレーニング及びトレーニングゲームの内容と今のチームの課題等です。その他、皆さん方が気になる部分、例えば外国人選手。まだ開幕もしていない、合流してから二十日間位での評価という事で聞いて頂ければと思います。ブルーノ、ダヴィ、カウエのチームへのフィット感。ピッチの中でも外でも予想以上に溶け込んでおります。特にブルーノは性格も分かった上で獲り、日本でやっていた訳ですので何の心配もありませんでした。ダヴィとカウエは、ブラジルに昨年行った時にそれぞれ食事を通して性格的にどうなのかと。新入団会見の時にもお話ししたんですけどもプロとして能力があるのは勿論の事、チームの為に闘えるのかどうか。自分の為に闘う選手であれば僕はいらないと思ってますし、チームの為に闘えて且つその中で自分を出せる選手を求めたい。今年度の高校卒業の選手もそうですし、外国人選手に関してもそのような基準で取らせて頂きました。で、ブラジルで食事をしながら問題無いと判断して連れて来てはいたんですけど、チームに溶け込むまでは正直心配。どうなるんだろうと不安な気持ちもありましたが、ブルーノの橋渡しもありチーム全体の雰囲気もあって、非常にスムーズに溶け込むことが出来ました。戦術的な部分も若干ではありますが選手同士日本語で話したり、余談ですけどウリセスが、僕来年いらなくなるんじゃないんですかっていう位私生活でも積極的に日本語を使っています。肝心のオンザピッチ、ブルーノはディフェンスラインで非常に効いています。まだまだ課題はあるんですが、チームがやろうとしている戦術をいち早く理解し、最終ラインの中心的な選手としてすごく活躍してくれています。川崎やイルファ(城南一和)、スウォンサムソン(水原三星)などの強豪チームとやっても存在感は感じました。ラインコントロールを含めたゲームの中での指示はブルーノが殆ど出しているんですけども、皆さんもゲームを見ればビックリすると思います。初めて聞く方は日本人が出しているんだろうなという位スムーズに大きな声を出して、チームをまとめております。ダヴィはまだまだ大きな課題があると思っています。ポテンシャルは高いと思って取って来てますし、是非成功してもらいたい。ただ独特な日本のサッカーのリズムにどれだけ融合出来るか。そこが大きな課題だと。基本的に周りを使うタイプであればコンサドーレで成功する可能性は高いと思っただし、全員で守備、攻撃が出来るチームを目指そうという中で連れて来ましたから。守備はチームが求めている事を非常にやってくれています。攻撃は3試合で2得点1アシスト。良い結果ですが、まだ物足りない。ポストプレイの精度と回数をもっと増やしてもらいたい。まだまだ若く、最初から出来るとは思ってはいないんですけども、決定力は持っているだろうから努力をした上で必ず出来ると思って札幌に連れて来てますので、今後トレーニングに励まなければと。西谷とは今すぐにでもある(程度の)レベルとやっても通用する位連携は取れて

いますが、チームとしての連携を考えたいし出来なければいけないと思ってますので、その辺が今後の課題かなと。カウエはもともと英語、スペイン語、フランス語など話せる。初めて会った時、当時まだ決まってませんでしたけども三浦監督が英語も話せる事は知ってましたので、英語だけでも話せば監督とも直接コミュニケーションが取れるなど。僕も旅行程度の英語は出来るので話したところ、それ以上の英語で返され、これは心配無い。ダヴィよりもチームへ溶け込むのが早いんじゃないかと。結果的には両方非常に早い段階で溶け込んでいましたが、で、ピッチ上では闘える選手という印象です。分かり易いという昔いたビジュのような働き蜂。ビジュには失礼ですけど、ビジュよりちょっとインテリジェンスさがあるかな。外国人だからおいしいところ、例えば得点に絡むところだけ仕事するというのではなく、チームの為に汗をかく。オシムさんの言葉で言えばその水を運ぶ選手。今非常に機能しています。ただ、ポジションにおいては激戦区。大塚、芳賀、上里、鈴木智樹、色々な選手がそこでトライしています。ボールを奪う強さは非常に高いものを持っていると今の段階で思っております。ブルーノ、ダヴィ、カウエも、まだまだ課題はある。一つ一つ明確にしトライさせ、何とか良い形で開幕を迎えたいと思っております。簡単ですが、新しい外国人を含めた大体のチーム状況の話をさせて頂きました。ありがとうございました。(会場拍手)

司会: どうもありがとうございました。今回このサポーターズ集会に出席頂く為にキャンプ地からお戻り頂きました。プログラムに組み込まれていない位急遽ですが、皆さんが一番聞きたい部分だと思われましたので時間を割かせて頂きました。スケジュール的にずれ込んでおりますけれども、一旦ここで5分休憩を入れさせて頂きます。後ろにある時計で1時15分でございますので1時20分から、今度は前もって受付箱で集めさせて頂いた質問に対してのお答えをさせて頂きます。じゃあ5分間休憩入ります。

(休憩)

司会: それでは、会を続けたいと思います。会場担当、ドアを締めてください。次の議題になりますが、事前にファンクラブ事務局の方で質問票を集めさせて頂きました。その質問のほんの一部分だけを3ページ目に書いてありますので、その内容に関してHFCの方からお答え頂くと。お答えが終わった段階で、会場でも集めますので。重複するものに関しては割愛させて頂きます。この質問に対するお答えの時間が終わった段階で、もう一度休憩を取りますので、後ろの受付の方に出してください。それでは門脇常務お願いします。

門脇常務(以下門脇): 皆さんこんにちは。(会場からこんにちはの声) どうもお疲れ様です。私も7回目の冬を迎える事になりました。皆様の仲間に入れて頂いて、よくも続いているもんだなぁと思っております。7回と言わず8回、9回と仲間はずっと入れて頂ければ幸いです。日々全力を尽くし、皆様との間を取り持つコーディネーターという役割で、皆さんのストレスがたまらないようにこの1年間また頑張りたいと思います。今日は社員も休みであるのに、来なくても良いと言ったにも関わらず積極的に参加してしまして、もう一人広報部長の斗沢も来ております。よろしくお願いいたします。大通公園で店を出してしまして、残りの社員は店子やってますので、どうかよ

ろしくお願いいたします。時間も大分おして参りました。三上が非常に詳しく説明して。実はこの議事録はあまり書かない方が、というか皆さんだけで伏せて頂いて。このまま議事録が敵に渡っちゃうと負けてしまうんじゃないかと思う位詳しく言っていました。では、お名前は言いませんが質問状そのままの文章を読ませて頂いて、各分野で答えられる私、社長、佐藤の3人が。それでもまだ不十分な点は後ろに石井とか三谷とか斗沢が控えておりますので詳しく聞く場合もあると思いますが、その項目に基づいて皆さん方に出来るだけ詳しくお答えしようと思っております。それに対してまた御質問等があれば、後半戦でお答えするという形を取りたいと思っております。1時間程と長くなりますので、ちょっと座らせて頂きます。大きくAからDまでございます。まずAの一番目、バックスタンドの空席に関して質問を頂いております。「毎年シーチケを買って応援しています。毎回会場を見て思う事ですが、S B席、特にアウェイ側の観客の少なさが非常に気になります。テレビでも一番よく映るところであり、中継を見ている人でもあの様子からコンサの試合が全然客が入っていない、さびれていると感じている人もいます。コンサドーレのユースの子達、修学旅行生など座らせるとか、対策が絶対に必要だと思います。今まで手を打っていないところがHFCの不思議なところだと思います」と、いきなり1枚目からドスンと来ましたので、まずここからお答えしたいと思います。これについては佐藤が詳しくお答え出来ると思いますので、佐藤に代わらせて頂きたいと思っております。

佐藤取締役(以下佐藤) :座ったままで、お答えさせて頂きます。バックスタンドの空席が目立つと言うのは、私共も実は非常に感じております。同じような趣旨のお電話も頂戴しました。全く手を打っていない訳ではありません。例えば今までいろんな企画チケットを出してます。ペアで来場した方だとか、新1年生対象にした方とか、結婚10周年の方だとか、色々チケットを出しておりますけれども、対象席はS Bにしている。また、前座試合に出場した選手の関係者はS Bに座ってもらう。やってはおりますけれども、現実にはS B席が相当程度埋まっているかという決してそんなことが無いというのが事実でございます。で、私共昨年からは札幌市内の小学校を対象に招待事業をやっております。1試合あたり4～5千人規模のお客さんが入って参ります。先ほど社長が冒頭に申し上げましたけれどもチケット単価が下がっているという結果に結びついている訳でありますけれども、この招待事業の対象席はS Aを使っております。S A席を何故使っているかという、S A席にもしお座りになれなくても、そのチケットでS BやBに回れる。招待をされた方々にご迷惑がかからないだろうという事で。もう一つはS A席が一番広いと。今年は、こういうご趣旨のご提案もございますので、是非その招待についてはS AとS Bに振り分けて、S B席にも親子の方々が沢山お入りになれるよう、見た目にも相当入っているねという感じを持たれるような姿に行きたい。ただ、S Aの客がS Bに流れるだけでは、観客動員という意味では増えない訳ですから、そういうこともしながら何とか全体的に観客を伸ばして行きたい。そのように思っておりますので御了承頂きたいと思っております。以上です。

門脇 :はい、という事でございます。何卒ご理解をお願いしたいと思います。出来るだけS B席を売って頂くか、皆さんも是非座って頂きたいと思っております。宜しくお願いいたします。次にAの2、「柳下監督解任にあたっては納得出来ない事が多かった者ですが、今年もコンサを応援していく者として

の希望です。HFCのクラブを運営される立場としては色々大変とは思いますが、その都合を監督に押し付け、言う事を聞く者ばかり人選の基準にするのだけはやめて頂きたい。どうか監督を支えるという方向性を忘れないで頂きたいと熱望しています」という御質問でした。解任にあたっては過去色々報道あるいは我々も説明していると思いますが、これは要望もあったお話だと思っております。これについては社長の方から一言説明して頂きます。

児玉: この文章で柳下監督解任という言葉がございませうけども、私共は解任した事はございません。1年契約で期間が参りまして、監督の方から強化部を通じて、来季は監督を務める意思が無いと。今季限りという意味が伝えられました。その意思を尊重して、新しい監督を探す作業に入ったというのが具体的な経過です。納得出来ない事が多かったと言うんですが、これは様々な考え方があってと思います。個人のお考えがあるかもしれませんが、私共としては局面打開、そしてコンサドーレを更に強くしていく。3年間で柳下監督が培ったもの、それを糧として強いチームが出来る新しい監督を選んで行くという事を考え、三浦新監督にお願いした次第です。それが経緯ですので、納得出来ないという方はいらっしゃるかもしれませんがご理解頂ければ有り難いと。それと、その都合を監督に押し付け、言う事を聞く者ばかり人選の基準にするのは止めて欲しいというご意見がございました。監督に都合を押し付けるとか、どういう意味合いなのか分かりませんが、監督の意思を尊重して支えて行くのは、この3年間の柳下体制も支えて参りましたし、これからも三浦監督を支えて行きたいと思っております。都合を監督に押し付けることはございません。それとスタッフの人選基準だとは思いますが、言う事を聞く者ばかりを集めているという事もございません。逆に言う事を聞かない者ばかりが集まっているという感じがしております。もうちょっと言う事を聞いて貰えれば良いと思っている次第です。私の答えは以上です。

門脇: 何か言う事を聞かないのは、僕かな？(苦笑)考え方というのはそれぞれあると思います。しかしながら、それこそチームの為に、あるいは会社の為にですので、我々も全て連帯責任を持ちながら一つ一つ物事を進めております。決して独断とか偏見でやっているものでないというのは、ご理解頂ければと思っております。次にAの3。「且って」2で闘った浦和はもともと豊かな人脈があるので、彼らの現在は納得出来る。しかし我々のように他クラブを養子に貰ったのではなく、一から作りあげた大分、新潟は我々と違って今やJ1に定着している。我々と彼らの差はどこにあったとHFCは分析しているのか。彼らから我々が学べるとしたらどういう点か」という風な御質問を頂いております。これについては私が。もともと大分、新潟とは、生まれた経緯も違ってきます。我々は市民クラブですから資金力に乏しく、非常に時間がかかっております。冒頭社長が説明したように1996年から99年まで、色んな意味で新しい仲間が寄り合ってJ1に上がるチームを作った訳ですが、結果的に今日まで大きく大分あるいは新潟と差が開いた。それについてはマーケットというんですか、それぞれの地域の経済力、住む人達の気質、そういう違いがあるとは思いますが。遥かに浦和の方が強くなっていて、資金力に我々はもう全くついていけなかった。最近浦和は58億円の運営費で、今や三菱から独立して独自でやっている。羨ましい限りですが、それまでは全て三菱が補填していた時代がありまして、我々はなかなかそういう事が出来なかった。大分に至っても今や有力なスポンサーがついて、それをベースに進めている。我々はまだまだ持ち株会を筆

頭にしたクラブとしてそこまで脱却してないと思いますけれども、色々な意味でまだ学ぶ点はあると思います。それについては一つ一つクリア出来る事から時間をかけてやっていかないとはいけないと思っています。社長が言ったように2008年、また新たな問題も出てきます。それを何とかクリアしながら皆さんの力添えを受け、何とか浦和、大分に負けずにやって行きたいと思っております。我々も頑張りますので、もう少し温かい目で見て頂ければと。それからAの4。「札幌ドームを利用する時に、ファイターズと事前に日程の取り決めの話し合いなどは行われているのか。もし何か行っているのであれば教えて欲しい」と。例年あちこちから質問を頂いておりまして、何度かお答えしてと思いますが、日程を決める时期的な差がはっきりとございまして。例年8月末位から来年の日程について動くんですけれども、札幌ドームには色々なイベントが入っております。音楽ライブや宗教の集まりとか、早いものでは1年以上前から予約が入ってまして。また札幌ドームは高収益のお客という事で、早い段階からまずその予定を入れ込んでいます。それから日本ハムファイターズあるいはその他の行事。どうしても野球の方が先行していきます。ご存知だと思いますけどもサッカーは12月上旬まで。J1とJ2の入れ替えが終わらない限り相手チームが分かっているかないという事もあって、相手次第で札幌ドームの日程が組み入れられるかどうかと。(日程予約)時間的にどうしてもJリーグ独特のズレがございまして。後手後手にまわるという形になるのは否めないと思っています。それでも札幌ドームさんは、最低10試合は何とか調整して入れて頂くように努力して頂いております。特に春先と11月から12月にかけては何とか入れて頂くお願いはしております。蛇足ですけども、冠のある例えばサッポロビールサンクスマッチとか、オフィシャルパートナーズのサンクスマッチにおいては出来るだけ夏場の暖かいお客様がいっぱい来る夏休み中に、札幌ドームでやりたいという要望があります。けどちょうどその頃が一番重なっていて使えない。どうしても前半と後半にサンクスマッチがかかってくるという事で、スポンサーの方にもご迷惑をかけているという状況であります。これ(日程調整)については例年何とか努力しています。申し訳無いですが今年4月11日は、東京でやらざるを得なくなりました。詳しくは社長の方から説明があると思いますので、別途。日程を決める時期に違いがあるという事でご了解を願いたいと思っております。それからAの5の1、Aの5の2、Aの6は、ほぼ共通な回答になるかと思えます。これについては社長から説明して頂きますが、まず問題を読ませて頂きます。まずAの5の1について。「岡田氏の言うように、監督の賞味期限が3年だとすると、それより長期7~8年に亘っての視点でクラブ作りをするGMが不可欠だと思う。そこに人材を得た千葉の例もあれば、資力はあってもなかなか強くなれない名古屋、京都の例もある。勿論GMをとり立てなくとも、社長自ら監督自らが豊かな人脈や目利きを持ってGM的仕事をして強くなった浦和や鳥栖の例もある。札幌にはGMがいなく、それで中長期に強くなれると思うか。社長自らがGM的能力を発揮出来るのか。勝てれば入場者数が増えるのは確かな事ではあるが、成績が悪いから収入が増えないというのは経営者としてはいかがなものか。仮に成績が悪くとも観客を減らさない、又は1,000人でも多く集客するにはどうしたらいいか考えるのが経営者ではないのか。試合日、ゲーム以外の楽しみを作り出すというような工夫をしているのだろうか。チケット半減で観客倍増というイベントより、毎回1,000人増とするにはどうしたらいいかを考えて欲しいと思う」というかなり厳しいご意見。続いてAの5の2の質問。「ロナウジーニョがフットサルをしていた事はよく知られている。また札幌はフットサルが強いらしい。フットサルリーグも始まるらしいが、コンサが参戦しない事を残念に思う。Jリーグでダメならフット

サルでコンサの名を上げてもらいたい。勿論金が無いというのがその言い訳だろうけど、ならば湘南は何故参戦出来て札幌は何故参戦出来ないのか。既存のフットサルチームにコンサの名前で参戦してもらうという考えは出来ないのか」と。続いて近いAの6を先に。「有望な選手を育て、育てるだけで出てしまう体質に、かなり不安を感じています。これはHFCが選手達に魅力のあるチームに思われていないからではないのか。本当に強くする為のビジョンがあるのか。腰掛けでやっているスタッフはいないか。強くなりたいと北海道民にアピールしているか。本気で応援しているコアなサポーター以外のファンを呼び込もうとしているのか。2007年は納得のいく戦いを期待しています。本気で期待しているから本気で戦って欲しい」。この3点について社長の方からよろしいですか？

児玉: お答えする前に、今年のJリーグのスケジュールの問題を若干説明させて頂きたいと思います。今年はドームが10試合、それから厚別が10試合、室蘭が2試合、函館が1試合、しかも本州でホームゲームをやるというふうになりました。理由は様々ございますけども、スカパーが今シーズンから全試合を中継するという事で、チャンネル数が一度に取れません。それで分散開催という事をしました。平日の夕方4時からとかナイターとか、土曜日の4時開催とか。その事によって加味する条件が多くなりすぎて。全体で300項目以上をコンピュータに入れて統合しながらスケジュールを組んで行くんですが、それが最後まで難航したという事がございました。それと世界陸上が大阪の長居競技場で、今年夏に開かれます。二百数十のチームが参加します。それが長居競技場周辺、関西の陸上競技場で事前と事後キャンプを張るという事になり、Jリーグ、主にJ2チームが使っている陸上競技場がその期間使えない。それを調整するのに難航したという事です。西が丘競技場でやらざるを得なくなった事については若干ブログでも書いたんですけど、熊本でやろうかとか夢の島サッカー場でやろうかとか色んな事を考えました。まず道内でやる事を最優先にしたんですけど、結局水曜日ナイターという事で、ナイター設備が道内であるのが厚別とドームだけ。厚別は4月中のサッカー競技は厳禁と、芝の養生の為になってまして使えない。ドームも使えない。室蘭は使えるんですけどもナイター設備が無い。ナイター設備を運ぶ事を考えて見積もりも取ったんですけども、運ぶだけで六百数十万円。大赤字を覚悟しての室蘭。更に宮の沢白い恋人で出来ないかと石屋製菓とも相談しながらやりました。ヨサコイの時に仮設スタンドを作った事がありますんで、5,000人規模の仮設スタンドを作って何とか出来ないかと石水さんなどと相談もしました。今あるナイター設備では照明度が弱すぎる。しかも位置が低い。厚別の照明設備を移動させる事も検討したんですけど、バックスタンド側の公園の方に照明車を入れる事が出来ない。もし入れたにしても高速道路に光が反射するという事で、走る車の安全性が担保出来ないと。結局、宮の沢もあきらめざるを得ない。Jリーグには積雪寒冷地の特例として宮の沢を使わせろという事も要望したんですけど、そういった様々な条件で出来なくなった。東京西が丘で4月11日にやります。これは是非満員にしたいと思ってますんで、皆様方も行って頂く。そして東京周辺にお友達がいたら是非観て頂く様に、色んなイベントを今考えておりますんで宜しく願いしたい。本題に入りますけども、コンサドーレにはGMがいらないというご指摘がございました。社長自らがGM的能力を発揮出来るかと書いていますが、残念ながら私はGM的な能力を発揮する事は出来ません。ただ執行役員の村野統括部長、そして先ほどご説明しました三上強化部長という優秀なスタッフがあり、こ

の二人がGM的な役割を果たして社内のフロントとチームの間を上手く取り結びながらやって頂いてというのが現状です。ですから、GMポストを置かなくても十分機能してると考えていますので宜しくお願いします。それから、勝たなければ観客が増えないでは経営者としてなってないんじゃないかというご指摘が。その通りです。ただ、勝たないとなかなか増えない事も反面で事実です。成績が悪くても観客が増えてもらえるような政策を去年から色んな事をやってまいりました。ホームタウン活動の充実がそれです。例えばドーレくんは社員になりました。鳥を社員にしているところは非常に珍しいかなとは思いますが、自分で飛んできてくれたんでキャッチした。ドーレくんの出勤回数といったものすごいんですね。一人しかいないんで。一人じゃない一匹しかいないんで、羽根を怪我したら飛んで行けないとか本当に心配していますが、本人は風邪を引かないように予防注射を打つ、マスクをする。そんな事を鳥ながら考えてやってもらってる。冗談ですけども、そういう風にどんどん市民の中に、道民の中に入って行ってます。サッカースクールの開催回数それから参加人数。正確な数字は持って来ませんでしたけれども、際立って増えてきていると思ってます。こういう事を積み重ねる事によって将来のコンサドーレのファン層を厚くして行くと考えております。その他のスポーツに関してもスキースクールをやる、あるいはアイスホッケーポラリスとの提携。様々な形で他のスポーツとも連携をしながらやって行っております。冬の間はアイスホッケー、スキーをやってもらいけれど夏は是非コンサドーレを観に来て欲しい。そういう要望もやっております。その他サッカーを通じての食育教室もホクレンと手を結びながらやっています。そういう地道な活動が、すぐ目には見えないけれども地域に溶け込んで、地域密着型のチームになっていくと。それが成績に関わらないで、観客に入ってもらえるような状況を作って行くと考えておりますので、今年は更に充実させて行きたいと思ってます。介護予防の関係でも厚生労働省とJリーグとが積極的にやろうと始めておりますし、私共も参画して行きたい。宮の沢のサッカー場で、おじいちゃんおばあちゃん、お嫁さん、お孫さん、3世代が一緒になって前向きにスポーツに取り組んで身体を丈夫にしていく。佐藤の方が今検討しているところでございます。それからフットサルについて。フットサルリーグは今年の9月だったと思いますけれども開幕いたします。2008年3月までに8チーム、3回戦総当たり制で。ベルマーレのフットサルクラブが参画しますけれども、残念ながら今のところコンサドーレには参画出来るだけの資源がございません。当分は参加出来ないと思います。それと、有望な選手を育てるだけで出してしまう体質にかなり不安を感じているという事ですが、強化計画の根本が育成型のチームを作るという事で、現在でも鈴木、石井、藤田、西、そういった自前で育成、養成した選手がトップチームに上がってきています。こういう人達が中心になっていけば、すぐいなくなってしまうという事はまずあり得ないだろうと。魅力あるチームに思われて無いんじゃないかというご意見にも反論になるかと思ってます。腰掛けでやっているスタッフはいないと私は思ってますし、それはご安心頂ければと。三上強化部長の方がこの辺については専門家、何か追加することはありますか？

三上: 有望な選手を育てるだけで出してしまう体質という事で、心配されていると。過去の例で言いますと山瀬、今野、藤ヶ谷、そういった選手が該当するのかなと思います。彼らも移籍する前年に他チームからのオファーがありました。1年踏みとどまり、その後大きな決断をし、それぞれのチームに旅立って行った。その留まったという所に対して、当時強化担当として彼等と話し合った中では非常にコンサドーレ札幌に魅力を感じていました。それは皆様方を含めたサポーターの熱意、

そしてクラブの強化ビジョン等を含め魅力を感じていて、結果チームに残留というのが適切なのか分かりませんが、もう1年みんなと一緒に闘う事が出来ました。その後もう1年やった時に、残念な事にチームと選手個人の成長力に大きな差が出てしまったと。選手としては当然より高いレベルでやりたい。本来クラブも一緒になって同じ成長をかければ良かったんですが、選手の右肩上がりの曲線にまで至ってなかった。その時も各選手、魅力は感じてやっていました。今在籍している選手は今年、最終的には正式オファーはありませんでした。サッカー界も広い様で狭く、選手間またはエージェントを通して一部選手にはそういった話は若干あった。でも皆様方ご存知の通り、クラブとして更新したい選手には全員残って頂きました。クラブのビジョンを選手一人一人がしっかり納得してくれ、また、皆様方含めたこの環境に愛着を持ち、魅力を感じてくれたから全員と契約出来たのではないかと考えております。心配されるのはよく分かりますが、ご理解頂ければと。よろしくお願いいたします。

門脇: はい、それでは次にAの7。「2007年度以降のU-12・U-15・U-18の選手の育成についてとスタッフの人選や新入団選手の採用基準について教えてほしい」というご質問です。本来、村野がご説明しなきゃいけないんですが、東京に出張で来れない。村野に確認しましたところ中期計画の育成方針の中にユースの今後のありようという指針が出ております。別途読んでいただければお分かりになるかなと思いますが、現在それに基づいて12・15・18そして旭川の15、この4つのジャンルについては厳格なスタッフの人選と新入団テストによって運営されてるとご理解いただければ結構だと思います。ユースについても相当な費用がかかっておりますので、特に2007年度は各カテゴリーで必ず地域優勝すること。全国大会でも決勝リーグには残るという目標を立てております。そういう意味から監督あるいはコーチを多少入れ替えております。恐らく今年はかなりの覚悟で選手達を育てくれるものと期待しております。次にA-8。「昨年、協会の某キャプテンによるオシム発言が問題となりました。協会とJリーグチームとの関係を考えさせられる出来事だったと思います。協会はJリーグチームを何だと思っているのでしょうか。私達は人材派遣のためにチームを支えてるのではないのだと思います。あの時もしも柳下さんの名前が出たらと考えれば、千葉サポーターの反応を対岸の火事として見ることは出来ないと思います。そこで質問なのですが、チームに所属する選手なりコーチが代表に選出された場合、チームはそれに応じる義務があるのでしょうか。コンサドーレについて言えば、現状はJ2であり試合日程も厳しい中、仮にユースも含めた代表選出の話があったとしても、得られる効果は限定的であると思います。むしろ選出された人間がたとえ一時的にせよ不在となるリスクの方が大きいと思います。極端に言えば代表に全く協力しないというのも一つの道だと思うのですが、クラブとしてはどう考えていますか」と。Jリーグの規約第41条には、出なきゃいけない義務があるという事が書いてあるそうです。いろいろなご意見があると思いますが、社長何かございますか？

児玉: Jクラブである限り、協力することははっきりしてます。41条を読み上げますと「Jクラブは所属選手が代表チームまたは選抜チーム等の一員に選出された場合、当該選手をこれに参加させる義務を負う」とはっきり書いてございます。もし選出されたら、私共は快く出すと考えておりますので、ご了解頂きたい。

門脇: はい、そういうことです。A - 9は先ほど出た問題とほとんど似てますので、問題だけを読ませて頂きます。「補強に関して、児玉社長が把握をしていないとの事だが、ほとんど把握が出来ないのか、それともしていないのか教えてほしい。もし、してないという事であれば、GMのポストを作るべきではないのか」という事でした。先ほど社長が説明した通り、ご理解願いたいと思っております。A - 10は「メンタルコーチ及び専任ドクターの常駐を望む。ファイターズとの兼任も可。ライバルチームとの能力差が互角であるなら勝敗を決するのは精神力。一度のミスは何試合も引きずってる事の多いコンサにこそメンタルサポートが必要と長年思っていた。そして負傷者に対するサポートの遅さ。手当ては時間との勝負であることを10年経ってもわかっていない。将来的にはファイターズ他と共同出資で北海道プロスポーツクリニックを立ち上げ、他スポーツを含めたサポート団体を目指せ」という事でございます。これも村野が答えるところですが、おっしゃる通り他のチームでメンタルコーチを入れてるところもあるとは思いますが、何分費用のかかることですし、検討するには値すると思います。ファイターズとの兼任というのも面白いアイデアかなと。負傷者に対するサポートの差というのはちょっと分からないですけども、決して遅いわけではなく、ドクターと連携しながら的確にやっております。特に強化部は選手と一番接しております。ほめたりしかったり、いろんな意味でメンタルに対しては努力してると思いますが、試合の経過を見ながら検討していきたいと思っております。次にA - 11とA - 12。審判の判定についてご意見がございました。「天皇杯準決勝、札幌の2失点目はオフサイドと思えるのですが、この判定についてクラブとして日本サッカー協会に質問状など正式に何かアクションをおこしましたか。プロクラブとして確認はしておくべきです。マスメディアにとりあげてもらえるよう、もっとアプローチした方が良いと思います。そのためには良質の話題を提供出来るよう、日々スタッフで考えてください」。それから「地元のクラブである事をもっと前面に出して頂きたいと考えます。株主の中で株主会の比率が高い点、出資企業の多さ。ファイターズと比べ、札幌が優位な点はさりげなく、しかし確実に訴えるべきです。共栄共存は大切ですが、本当の地元クラブが斜陽化してはいけません。最後に選手・監督、スタッフ全員が全力で闘ってください。私達も全力で応援します。100年200年先、永遠に」と。もう一つがA - 12の「ゲーム中のおかしな審判の判定にHFCとして抗議等しているのか。そういう結果を教えてください」。三上さん、アクションはその都度やってますよね。

三上: はい。リーグ戦も含めて不可解な判定に関しては、すぐに不可解な判定を納めたシーンをビデオ編集すると同時にA4のレポート用紙にシチュエーション等を書き込んで、判定はこうだと思おうとクラブの意見までを添えたものを毎回「リーグ、日本サッカー協会を通して審判委員会に提出させてもらっています。提出しますと必ず審判委員会から回答というか、返事がきます。ただ「どんな結果であろうとも、その判定が覆がえることではないことをご理解ください」という但し書きから始まった回答書になっております。回答例としましては「クラブの言うとおり、あのプレーに関してはカードが出るべきでした」とか「出ないべきでした」。または「クラブはこういったことを主張していますが、審判から見た基準は間違いなくファールです」と。審判の判定があつてと思います、または残念ながらクラブのいう通りの判定ですというような形であります。クラブの考えと同じだった場合、要するにクラブはこう思いますよという事に関して審判委員会が「そうでしたね。これはジャッジのミ

スです」といったものに関しては、審判委員会での材料にしております。うちが作った編集ビデオのそのシーンを、J1、J2で登録してる審判員の方全員を一同に集めた会議の中で見てもらっています。例えばゲーム中でノーファールというジャッジをしたけれども、これはファールですよというような形で、今後の審判の向上、判定の向上、基準化、明確化を含めて役に立ててもらえるようにやっております。昨年実績で、クラブとして十数回あげております。それに対して8割方クラブの言うとおりですねと。要するに誤審が多かったです。(場内どよめく)今どよめきましたように、皆さん何だそれって思うかもしれませんが、私達としても当然そういった気持ちはあります。ただ、サッカーというのは審判があって行われるものであり、その中で審判は絶対的なもの。私達が求めることは正確なジャッジで、今後もより一層努力してもらいたいという事だと。で、天皇杯の失点シーンに関して。天皇杯に関しては日本サッカー協会主催のゲームです。実は運営の部屋に審判の方々がかなりいたので、直接ビデオを出すことを抜きに話をすることができました。これに関しては、非常に難しい判定でしたねという見解でした。(場内笑い)僕もスタンドから見ていましたが、オフサイドとは思ってなかった。相手チームが上手かったという印象でした。他に佐藤尽、当時まだ決まっていなかった三浦監督など4、5名で見ていた中、皆そういう感覚でした。ただ、僕の個人的な携帯メールに他クラブの強化担当から、コンサを応援してくれたこともあったと思うんですけども、あれオフサイドじゃん？っていうのが試合中に5、6件入ってきてまして。(場内笑い)自分が見ているのとTV映像では、よっぽど感覚が違うんだなという事は試合中認識しておりました。それがあったのでゲーム終了後すぐに映像確認してみたところ、確かにオフサイドではないかと。審判委員会の責任者もいたという事で直接お話をしてもらった結果、冒頭にお話した、微妙な判定でしたねという事でした。そういった形で、異議等でおかしな判定に対してはクラブとしてもやっています。ただそれで判定が覆がえる、出場停止処分が覆るといようなことはありませんし、最初にお話した通り、我々がプレーの向上を日々努力するように審判も判定の向上に努めて頂きたいという事で、きちんと話し合った中でやらせてもらっています。今後もそういった形で進めたいと思いますので、ご理解いただければと思います。

門脇: はい、ありがとうございました。分かりやすく、内面が見えてきて非常にいい答えだと思っております。チーム運営に関しては一応これで終わらせて頂きます。引き続き経営面、資金面に関して。これについては私がお答えするのが2点、社長にお答え頂くのが残り。まず私が、あとは社長にマイクを譲って。全体の経営に関係がございますので、社長から説明を頂くようにしたいと考えています。まずB-1、今期の赤字決算に関して。「去年8月に北海道新聞社では、HFCはJリーグ配分金収入の見込み違いから約6,000万円の赤字を計上するに至った旨報道している。これは事実なのか、それとも北海道新聞社が間違った報道をしたのか。もし事実ならば、1.HFC役員が毎年変更となり引き継ぎがうまくいってないという事。2.社内での意思疎通がかけていること。3.社内に必要な部署に十分な人員を割いてないことが原因でないのか。また、Jリーグ配分金見込み違いは、一昨年のHFC役員逮捕に匹敵するダメージをHFCに与えたと考えるが、これに対して関係役員等はどういう処分を受けたのか」というご質問です。これについては当初私が上期決算の見通しを受けた時に、記者の方に説明申し上げました。その中で見込み違いという言葉は一言も申し上げておりません。見込み違いと報道されたことに対して厳重な抗議をしておりまして、そ

れについては事実誤認であったという謝罪は受けております。もう少し詳しく説明しておけばよかったと思いますが、予算作成上、Ｊリーグの配分金についてはほぼ毎年変わらずに推移しております。予算としては２００５年度１億７千万円のＪリーグ配分金がありました。そのまま２００６年度予算に組み入れたんですが１億円という選手強化費用が重なるという事で、入場料収入、広告料収入そしてグッズ収入、それから配分金と収入予算を積み上げていく中、どうしても積み上げ切れない部分がありました。ただ上期の段階では当然見込み違いはあり得ない。最後終わってみないと分からない訳ですから。３位以内に入れば例えばホームの放映権料。これだけでもだいたい５、６千万入ってくる。そういうことも含めて１億７千万円の配分収入で予算を入れざるをえなかったというのが理由でございます。結果的に６位で終わり、今締めているところで、まさにその通りの約５、０００万円は配分としてずれがございます。その時点では決して見込み違いというつもりではなく、ご理解を願いたいと思っております。それから役員等の処分。これはちょっと意味がよく分からない。ＨＦＣ役員の逮捕でダメージを与えた、役員処分……。前に言ったと思いますが色々処罰を受け、ちゃんとやっております。それから、もう一つは新潟の入場料単価に関しての食い違い。「昨年のサポーター集会でアルビレックス新潟の入場収入に関して、ＨＦＣ役員が過去の情報で（他クラブを）判断してるのではないかと。新潟は無料招待券発行枚数が減少しており、一人当たり入場料単価も上昇してるのではないかと質問した。その際のＨＦＣ側の回答は、新潟の入場料単価は８００円程度で総入場料収入はコンサドーレとさほど変わりませんというものだったが、去年のＪリーグで発表された公式記録とは大きく異なっていた。新潟は現在では札幌の二倍以上の入場料収入がある。何故ＨＦＣの回答とＪリーグの公開データの内容が大きく違っているのか。ＨＦＣはサポーター集会での質問に対しては、関係機関に調査確認してきた上で回答しているのか。ＨＦＣ幹部は新しい情報を入手せずにあぐらをかいて惰性で経営に当たってるのではないかと。サポーターが経営改善のためにいくらＨＦＣに提言しても、回答する側が質問を読み上げず無視したりいい加減な対応で済ませれば、経営改善などはとてもおぼつかない。なお集会時の質問は出来るだけ省略せずに読んで頂けると幸いである」という事で、もらさず読ませて頂きました。確かに私は昨年、推定的な意味合いで申し上げた。ブログでも何度も訂正をしるという事で、私も回答したことがございます。あの時の推定というのは事実は事実でございまして。実は昨年１０月にＪリーグからクラブ別平均観客数、平均入場料単価推移、クラブ別平均観客推移、それから各クラブの観客数動向考察というぶ厚い資料を頂いております。事実を申し上げますと、新潟については２００３年度ですけれども非常に驚くべき数字が出ておりまして。約３万人集客していましたが単価が８００円位でした。これが多分Ｊ２で昇格した年。２００４年度に至っては１９０４万人近く、３万８千人から４万人近い集客で１，９３７円のアベレージを出しております。普通ですと千円以上単価を上げるのは並大抵な努力では出来ないと思います。それまで招待客を相当出しておいて一気にＪ１に上がれば単価も上がる訳ですが、更に人数を増やして単価が１，９００円までいくとは。新潟に対しては非常に敬意を払うところではありますが、１年間で千円以上上げることはなかなか他のクラブの例を見てもないと。２００５年度、２００６年度、新潟も少しずつ落ち着いて少しずつ減ってきてはおりますけれども。我々も今後入場単価を上げる、それから入場収入、入場者数を増やすことについては非常に難しい課題ではありますけれども、取り組んでいかなきゃいけないと考えております。この新潟について、説明不足で言ったことについてはお詫び申し上げたい。若干データ収集

のタイムラグが生じたため、皆さんに誤解を与えたと思っており、大変申し訳ないと思っております。それからB - 2の債務返済と今後の借入れに関して。またこれも漏らさず読ませて頂きます。「HFCは過去の放漫経営による巨額負債、株式資本の小口化により内部の意見調整が難しい。HFC幹部が会社運営に関して権限と責任を集約して経営に当たることは困難である。特に筆頭株主である持株会は8,700人の小口会員からなり会員の意見集約も困難である。こうした中で持株会副理事長であった児玉社長が、社長に就任しても外部からの様々な要求に耐えられず結局拡大路線に陥るのではないかと。またHFCは2009年以降毎年2,000万ずつ債務を償還していくと聞かすが、これではスポンサー企業から、我々は自社商品をアピールするために貴重な資金の中からコンサドーレにスポンサー料を供出している。そうした貴重なスポンサー料が、過去の負債返済に使われては自社商品アピールが不十分になるので困るという意見が出て、新規大口スポンサー獲得は事実上不可能になるのではないかと。今後緊縮財政を続けることはユース経費の節減や職員の士気の減少に繋がる。北海道サッカー界の将来のためにはHFCを整理して営業譲渡等の手段を探ることが重要でないのか。もし児玉氏が今だHFC再生の見込みありと主張するならば、前任の佐々木利幸社長や新潟の池田弘会長のように、今後道からの借入に際して児玉社長が個人保証をつけないければ放漫経営が続くのではないかと」と。続いて全部先に読ませて頂きます。B - 4 - 1。みんな同じ方が質問してるんで、ご了解願いたいと思います。「昨年サポーター集会で、別紙のとおりHFCに対して児玉社長の社長就任の経緯について質問したところ、見事に質問が飛ばされた。その後児玉社長は、HFCについて知ってることは何でも話す。どこでも行くと発言している。これは言動不一致ではないか。HFCは過去の過ちを繰り返さないためにも、サポーターからの質問に真摯に答えてほしい」。これとB - 4 - 2。これも同じ方です。「HFCは親会社や大口スポンサーを持たないため経営責任が曖昧であり、スポンサー各社の広告料が比較的平準化しているため財政面からJ1定着が厳しい現状にある。一方でHFC経営陣トップはマスコミ露出の機会も多く、HFCの象徴として捉えられる。またユニスポの広告効果は他のスポンサーと比較して格段に大きい。このためHFC経営実権を特定ユニスポ出向者が掌握すれば、特定企業のイメージが過大になり、当該スポンサー以上の大口スポンサー確保が困難になるのではないかと。また経営責任が曖昧なため、HFC自体の利益追求及び会社維持よりもスポンサーサイドの利益が優先される傾向になるのではないかと」。これが一つの文章。続いて「昨年春の役員改選により、HFCでは既存スポンサー以上の大口スポンサー獲得が難しくなる危険性があったのではないかと。また当時持株会副理事長であった児玉氏が、会長職より下位の社長職に就任した結果、筆頭株主である持株会が改選後のHFC経営体制を支持する形になったのではないかと。こうした問題点がありながら児玉社長は何故社長に就任したのか。持株会会員である大多数の一般サポーターはこうした事態を望んではいなかったのではないかと。一昨年6月の役員改選により児玉社長がHFC最上位の職位に就いたが、株主構成が細分化され、持株会会員の意見集約も困難な現状では、社内統一意思形成にも時間がかかり経営責任も曖昧な状態が続くのではないかと。就任以来児玉社長が発揮された調整力は高く評価されるべきと考えるが、今後も社内改革を進めるには、社内組織体制の責任の明確化及び大口スポンサー確保等が必要ではないのか」という質問が同一の方です。それからB - 5とB - 6が関連していますので、またこれも読み上げさせていただきます。「昨シーズン途中、福岡が減資を行い、結果的には30億円近くの債務を圧縮していると聞きました。(減資によって、

資本金は1億円を切った額になったとのこと)債務圧縮の方法として減資の手法を用いたという情報は定かではありませんし、もし本当だとしても一体どのような仕組みなのかは想像つきかねますが、仮にこの方法が有効だとしたらこれをコンサにも応用出来ないものかという考えをします。クラブではこのようなやり方については検討なり情報収集なりを行っているのでしょうか。検討するのであれば、こういった手法が適用出来る可能性はありそうですか。その辺りを教えてください」。もう一つ、「累積債務の解消に向け、具体的な方法・返済目標は検討しているのかいないのか。例えば、1.減資によって解消する。2.増資をつのり、それを返済にあてる。3.株式化(2に近い形。北九州モノレールがこの方式で累積債務を解消している)。4.その他、何か検討している方法があれば。例えば年数で言えば、5年以内・3年以内 × ×年までにメドをつける、完済するといったように、具体的に」。ここがまた困っておりまして、「石水氏が以前言ってた、100年かけてでもというのであれば全くの論外。内外に厳しい批判を浴びて当然!」と書いてあります。経営の減資についての問題、それからいろいろスポンサーとの経営との問題、持株会との問題という事がございますので社長にまとめて、という事でございます。

児玉: 様々なご質問が含まれておりますけれども、整理してみますと、きちんと児玉は経営の把握をしてないんじゃないかというご意見だと思います。それについては私共は月に1回取締役会を開催しております。私が社長になる以前は年に多くて4、3回。それを一昨年から年12回、毎月やっております。主だった株主の代表が入っております。この取締役会、要するに代表責任者である私やその他の執行役員を含め、どんなことをやっているかを常に監視しており、放漫経営とか曖昧な経営をすることを許さない機能がきちんと働いていると思っておりますので、ご心配はないかなというふうに思います。それと持株会の関係も出ておりますけれども、持株会の理事会とは常に密接な関係を持ち、理事会があれば私も出席しますし、そこで意見を交わしながら筆頭株主としてのご意見を経営に生かしていくという事をやっております。更に持株会事務局も会員からの意見その他を理事会に反映するシステムはきちんと出来ておりますので、その辺も大丈夫だと思っております。それからHFCを整理して、営業譲渡等の手段を探ることが重要ではないかというご指摘もございました。そういう考え方もあるとは思いますが、現在の段階で整理、営業譲渡する考えはございません。営業あるいは経営に参画させて欲しいという企業が出てくるのを待っている状態で、もしあれば手を携えて経営を強化していきたい。そういう方があったら是非手を挙げて頂きたいと思っております。それと、児玉が個人補償をつけないければ放漫経営が続くのではないかという事でございますけれども、私が5億円の個人補償をしたからといって必ずしも放漫経営がなくなるという事には繋がらないと思っておりますし、私もサラリーマン上がりですので5億円の個人補償をするという事は正直言って出来ません。それについてはきちっとした方が個人補償しておりますので、これも心配ないというふうに思っております。それから昨年の質問で、児玉の社長就任の経緯についての質問をしたところ質問が飛ばされたというご指摘もありました。社長就任の経緯というのは私の口から言うのはいかがかなと。私は選ばれる立場でして、選んだ方から聞いていただければありがたいと思っております。個人的な考えを述べさせてもらえば、一昨年の3月25日の株主総会で宣言されたんですが、私も持株会の副理事長という立場で、大口株主と佐々木社長の後継者をどうやって探すか、選ぶかを検討してまいりました。3月9日まで全く決まらない状態。誰も候補

として上がってこない。皆さん断られたと。2週間前に出す株主総会の通知には重役の名簿を出さなくちゃいけないという直前の事態になり、どうしても引き受け手が無い。児玉お前やれという事態になって、私が責任を持って引き受けるというふうになったことが経緯です。それ以外のことについては私に白羽の矢を立てた人方に聞いて頂きたいと思ってますんで、よろしくお願いします。それと、経営責任があいまいだというご指摘がありますが、何をもって経営責任があいまいかという事はこの文章から読み取れないと思います。児玉が持株会の副理事長から社長になったのは一般サポーターは望んでなかったんじゃないかという事も書いてございます。見方でいろいろあると思いますけれども、今言ったような経緯で社長になりました。社内統一意思形成にも時間がかかって経営責任もあいまいな状態が続くのではないかという事については、ご心配は必要ないかなと。一生懸命経営責任を勤めさせていただいてというのが現状でございます。以上です。

門脇: はい。かなり厳しいご意見というのはございます。我々も漏らさず隠さず、出来るだけお答えしたいと思います。こういう場でお答え出来る場合もありますが、お答え出来ないケースもございます。会社の方に来て頂ければ、私達はちゃんとおりますので、いつでも結構ですからちゃんといらして頂ければ、個人の方でもお答えします。納得がいくような形で対応をしていきたいと考えておりますので。非常に難しい問題はあるかと思いますが、この辺に関しては皆さんがお互いに共有出来る問題点を分かりやすく質問して頂ければ非常にありがたいというふうに思っております。それと減資について、福岡が30億円近くの債務を減資によって圧縮したと。経過を知ってるかというご質問も中にありました。私共も減資その他について、資本構成をどうするかという事については常時考えており、現在も研究を積み重ねております。福岡の場合は33億円の資本金を9千万円に減資し、新しい体制になりました。そんな事も含め、Jリーグの財務委員会その他と話し合いながら、私共の顧問弁護士あるいは監査法人等と知恵を集めてこういった形で債務を圧縮してやっていけるかどうか、さまざまな機会を通じて今検討している最中です。さらに細かくご質問があればまたお答えいたします。先程言いましたように別途個人的にも質問してください。だいぶ時間が押してますので、Cのサービス面、それからDのPR・社会貢献に関して。これは殆んど佐藤取締役がお答え出来る問題です。Dの夕張を勇気づけるアイディアについては児玉社長の方でいろいろお持ちですので社長に説明して頂き、それ以外については佐藤にバトンを渡しましてお答えをしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

佐藤: それではCの1からご説明、お答えをいたします。「柳下監督の3年間をまとめた本、雑誌、写真集など出版して欲しい。他のチームは毎年のように出しているが記念というのであればコンササポも結構興味を持ってくれるはず。10年誌まで立派でなくてもいいと思うが月刊コンサの特別号としてでも出して欲しいと思います」という事です。確かに柳下前監督についてはアクションサッカー、アクション&ムービングサッカー等でコンサドーレを育ててくれたという事がございますので、ご要望については非常に良く分かりますけれども、収支等を考え合わせますとなかなかそこまで踏み込めないというのが現状でございます。今本等を出す計画はございません。それから次の質問は「障害者割引を作ってください」と。現在は障害者割引ではなく、車椅子ご利用の方など通常のご観戦が困難な方々を対象にして特別招待を実施しております。駐車券付きでドームで16席、

厚別で6席ございます。昨シーズン1試合あたりドームで三、四十人、厚別で十人から二十人のお申し込みがございました。ほぼ2人に1人は招待できている。逆にいうと2試合に1試合はご覧いただいているかなと思います。また特別招待以外にいろんな福祉施設を対象にした招待事業も実施しております。それから障害者の団体が有料で観戦したいという様なご要望もございまして特別料金、これは割引でございますけれども実施をしております。ご質問の趣旨はそういう事ではなくて個々の障害者を対象にした割引を作ってはどうかという事でございますけれども、これについては例えば障害者であることの証明ですとかチケットの受け渡しですとか、いくつかの課題もあるように思います。ただ非常に簡便な方法があれば、こういう物を作らないという事ではございません。例えば当日券売り場での対応なら可能なのかなという気もいたします。ただ足の不自由な方、車椅子のご利用者にとってみれば当日券売り場に行くまで大変だよという事になるとも思いますので、少し検討の時間を頂戴したいと思っております。次はシーズンチケットの関係でございます。「シーズンチケットの発売期間が2月14日までとなっているが、パスタ型の物であればシースペース等で手渡しが可能なのにもかかわらず、2月14日までの期間であれば短すぎるのではないか。特典がなくてもかまわないのでドームの開幕戦まで販売して欲しい」。これはもうまさにごもっともなご意見でございます。一応2月14日としておりますけれども、これはパスやチケットの発送作業の時間なども考えての事でございます。で、2月14日以降受け付けないという事ではございません。私共も1枚でもたくさん売りたいと思っておりますから、ぎりぎりまで販売をしていくつもりです。去年も、例えば開幕戦で1試合分割り引いたシーズンパス・チケットの販売もいたしました。2月14日というのは一応事務的な作業日程から逆算した日にちではありますけれども、それにこだわるものではないという事を申し上げておきたいと思えます。次は「厚別競技場での試合時に売店が少ないので、移動販売車を出して欲しい。都市公園内では法律上店舗設置が制限されているが、移動販売車を出す事は可能である。実際厚別公園を管理する財団法人札幌市公園緑化協会ではモエレ沼公園において移動販売車収入を得ている。特に厚別競技場での試合時には会場付近でサポートシップスポンサーであるたこ焼き屋が営業しているので、競技場付近で営業可能になればHFCにも当該たこ焼き屋にも多少の収益が見込まれるし、観客の利便にも供するのではないかと。移動販売車が公園内で販売するという事は可能です。それには札幌市公園管理課に公園使用許可申請する手続きが必要になります。許可されると1平方メートルあたり280円の公園占用料、占有料が発生します。通常の移動販売車、例えば軽ワゴンタイプですけれども、この場合1試合あたり1,500円になるという計算になります。この他札幌市緑化協会に販売手数料として売り上げの10%を払う必要があるというような事になっております。それとはまた別に、私共は厚別競技場の飲食販売は現在のところ(クラブオフィシャル)スポンサーをお願いをしております。で、スポンサー以外が出店する場合には既存の出店業者との調整が必要になる。移動販売車の方が公園占有料と販売手数料を払って販売するという希望を持たれていて、しかもその業者がサポートシップスポンサー以上であるならば、既存の出店業者との調整は行うというふうに思っております。現段階ではそう考えております。皆さん方がいろいろご不便をお感じになっているという事になれば検討の可能性はあるかなと思っておりますけれども、現段階での考え方は以上、述べた通りでございます。

司会: すいません。今のお話の中で、同じサポーターという目線から。たこ焼き屋という呼び方で質問が書かれているんですが、ご存知の方も多いと思いますが、田島さんに関しては(HFCに)寄付もされていますし我々同じサポーターだという事で、ちょっとこの表現に関しては、質問者の方にもそうなんです、かなり古いサポーターであればこの方がたこ焼きを販売されているタジさんと存じ上げていると思いますので、こういう書き方は非常に失礼に当たるとはならないかなと。サポートシップスポンサーでもありますので。先程冒頭に申し上げました様に、文章の書き方一つで不快感を与えるって事が多々ありますので、皆さん今後ともご注意頂きながら出して頂きたいなと思っております。すいません、中断しまして。

佐藤: 申し訳ありません。私は原文通り読まして頂きましたけれども、今のように私共も大変お世話になっている方だという事は承知しております。次は「みちのく食品倒産後、厚別の食べる物が本当にないので石屋のバームクーヘンの発売か、屋台等の設置をして欲しい」という事でございます。バームクーヘンについては全く問題ございませんで、石屋さんが売ると言えばそれでOKだろうというふうに考えております。それから屋台の設置はなかなか難しい所がございます。厚別競技場での売店は試合時のみ営業する飲食店として保健所の営業許可を受けております。飲食店申請をするには常設の二層式の流し台が必要なんだそうでございます、その事が1つ問題点としてございます。また1つのブースに2つ以上の(飲食)店が入ってはいけないという事で、個室でなきゃならないという事が条件の一つになっているというふうに聞いています。現状では厚別競技場にもう1つ飲食店のブースを追加出来るスペースがないという事がございます。厚別の売店に関しては保健所もかなり神経質になっておりまして、特にメインスタンドの裏側は直射日光が当たるという事で食中毒の危険性も指摘をされております。またテントなどでの飲食販売は保健所から認めてもらっておりません。実際昨年、保健所と交渉したけれどもダメだというような事がございました。次は「厚別かドームの観客動員を増やす対策として、旭川や室蘭等から来場する人の為にJRが中央バスと共同でチケットと往復のJRのキップセットかバスチケットのセット券を販売出来ないのか。もし出来るのであれば早急に行って欲しい」。私共もそういう事を考えていない訳ではございません。例えば中央バスさんはスポンサーさんではないので出来ませんけれども、JRさんに対しては私共から働きかけるのは可能だろうと。ただその前提として、どの程度の需要が見込まれるのか。JRさんにとって採算ベースに合うのか見る必要があるだろうと思っております。また、高速道路の券とセットでチケットを売ってはどうなのというようなご提案もございます。いずれにしてもいい事はどんどんやっていきたいという気持ちはございます。結論をここでは申し上げられない点がございすけれども、これについても検討させてもらいたいものだというふうに思います。次はCの7、「ゲーム開始寸前時、HFCが会場で流している曲とゴール裏が歌っているチャントは別物なのが現状であり、効果を考えると疑問だ。音楽を止めるとかチャントを変えるとか、すり合わせする事がないのはなぜか。現在タオルマフラーを振り回す事はゴール裏だけでなく、アウェイ席裏のコンササポもしているが、チャントまでは会場音楽のせいもあってか歌っている人はいない。ぐるりと全域からチャントの声が聞こえてくるようにするにはどうしたらいいか考えているだろうか」。以前、サポーターの方々から自分達の時間が欲しいというようなご要望がありました。そういう事で選手入場前に、そうした時間をほんの数分ではありますけれども作っております。以前は3時間前入場だっ

た時代がございました、今は2時間前開場という事で、運営面でのスケジュールもきつくなっております。ご満足をいただけない状況もあるかと思いますけれども、サポーターの声を無視しているつもりは全くございませんし、いい事についてはやってまいりたいと思っております。これからもご提案なりあれば当然耳を傾けてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いしたいと思います。次はDの1。私も勉強不足で分からない点がございまして、こんなふうな事です。「以前日刊スポーツでディスクジョッキーオズマがコンサドーレ素っポロ発言で感謝状を出す」と検討中であったが、別にPRをしているわけでもないし、知名度アップの貢献をしているわけでもないし、感謝状を出す位であればジェッタースリーにPR大使の継続か、チームナックスか、里田まいさん等にPR大使の就任依頼をした方がいいのではないのでしょうか」と。いろいろ周囲にも聞いてみたんですけども、よく理解できておりません。ただジェッタースリーのPR大使については、今までと同じ様な関係を保っていきたいと考えております。もう一つ、「オフィシャルホームページの充実を希望します(選手ブログ、スタッフブログ、社長もっと更新して欲しい)」。これは社長によく言い聞かせないと思っておりますが、確かにご指摘のようにブログがなかなか更新されないケースもございまして、きちんと目配りをしてまいりたいと思っております。ホームページについては現在既に改善をするべく、いろんな所と話をし、いろんな知恵を借りながら出来るだけ皆様のご要望に添える様考えておりますので、もう少し時間を貸して頂きたいと思っております。私の担当は以上でございます。

門脇: はい、ありがとうございました。最後にDの2の夕張を勇気づけるアイディアはという事で社長にお答え頂きますが、まず質問を読ませて頂きます。「先日、ロッテマリーンズの小林雅英投手が、経営難の地元ローカル線の民鉄を支援するという話を新聞で見ました。応援する会みたいなものを作り、会費を集めるほかに様々な活動を予定しているそうです。このように、地元まつわる支援活動はコンサでも佐呂間の竜巻被害に対する募金など行っている事は承知しています。それで、北海道で今困っている所はと言えば夕張です。夕張に対して、草の根レベルでも何かしてやれる事はないのかという話ですが、例えばこういう事はどうでしょうか。地元で金が落ちるようなものとして、夏場にミニキャンプを張る。リーグ戦の日程にもよりますが、サテライトリーグを開催する。プリンスリーグ開催の橋渡しをする。夕張での試合実施の働きかけ等、クラブが出来る範囲でこのような活動をして少しでも夕張の元気づけに役立つような事を考えてもよろしいかと思っております、いかがでしょうか」。これは社長も強く心に思っているんじゃないかと、いろいろな考えがあると思っております。

児玉: 2点あると思っております。一つは、私共心配しているのが、天然芝が4面ございまして。第一競技場、第二競技場。これはサッカー専用球場。それから多目的広場にも1面。それと陸上競技場の中の芝生。合わせますと、立派な天然芝が4面あって、なかなか維持できていかないんじゃないかという危惧があります。昨年度まで年間2,000万円の維持管理費を夕張市が出していたんですが、一昨日の道新によりますとこれが200万円、十分の一になるという事です。空知サッカー協会の代表は200万円ではなくて20万円になる。要するにガソリン代だけ出すという事で、後は全部職員のボランティアでやるんだという事だったんですが、職員も半減するような状態でも芝生の維持管理まで手が廻らない。全く管理出来ない様な状態になると危惧されます。これについて今、

北海道サッカー協会と私共、それから地元夕張のサッカー関係者との間で話し合いを進めています。どういう形でやればいいのかこれから結論が出て来ると思います。私共の方はJリーグ、それからサッカー協会の方は日本サッカー協会に上げて、維持管理するために是非支援して欲しいという事を言ってます。Jリーグの百年構想では、全国に芝生のピッチをとというのが大きな目的ですので、その4面が無くなるという事が目に見えているのにどうしたらいいかという事では、一致して協力してもらえと思っています。13日、Jの実行委員会がございすけども、この席上でも各チームにも協力してもらいたいと要望してきます。それと現在考えてるのは、例えば夕張でサッカーフェスティバルみたいなもの。全国のJチームのユース、あるいはそういったレベルの人たちが集まってサッカーフェスティバルが定期的に出来ないかと。1回だけではその場限りで終わってしまうので継続的に出来るような大会を考えていきたいと思っています。あそこでは私共のユースもキャンプを張ったり、いろいろお世話になっております。ガンバ大阪、マリノスもキャンプを張っておりますんで、何とかオールJ、オールサッカー界で4面を維持していくために力を注いでいきたいと思っています。ただ今のところまだ見えてないのが夕張関連の施設を何処の企業に受託させるかという事。そんな中で果たして4面のピッチがどういう状態になっていくのか、その辺が見えてこないので詳しい事はこれから詰めていきたいと思っています。夏場のマウント・レースイをはじめ宿泊客はおよそ3万人いるんですけども、そのうちの1万人がサッカー関係者と聞いておりまして、市場としても残しておかなければいけない事ですので、是非それについてはやって行きたい。今年のリーグ戦でも夕張に元気を出してもらうためのアイディアを盛り込んだゲーム、夕張頑張りゲームとか、そんなふうないろんな事を考えておりまして、現場で検討している最中です。私の方から以上です。

門脇: はい、ありがとうございました。以上で質問等、充分にお答え出来たかどうか分かりませんが、これで終わりました。約1時間ほど遅れました。申し訳ございません。それでは、後は斎藤さんにまたお譲りします。

司会: はい、ありがとうございました。まずサポーター有志の方のお知らせを先にさせていただいて、それから休憩に入ります。その後平川さんの講演を頂戴いたします。ではサポーター有志の方。まず恒例のほくせんさん、ほくせんさんの斉藤さん。

斉藤: 皆さんこんにちは。ほくせんサポーターズカードの斉藤です。今日は毎年恒例の寄付金額の中間報告をさせていただきますのでよろしくお願い致します。まず前年度の寄付なんですけれども、合計で2,190,779円という金額になりました。二年越しの200万円突破の目標をクリア出来て本当に嬉しく思っております。どうもありがとうございます。今回も昨年12月の最終戦でサポカードメンバーからHFC児玉社長にお渡し頂きました。たくさんのご利用をメンバーの方にして頂きまして本当にありがとうございます。で、今期9月から始まっておりまして12月までの4ヶ月で何と832,475円。特に12月1ヶ月で今までに見た事のない驚異的な金額をたたき出しておりまして、これは全て天皇杯効果かなと思われます。チームが勝ち続けるとサポメンバーの方もたくさん使って頂けるという事が、法則として判明したんじゃないかと思います。要するにチームが強くなると寄付金額も増えるっていうわけですね。平成13年から始まりまして寄付なんですけれども、今年は総額1,

000万円を目標にしております。後8ヶ月で181万の寄付金額をもって達成する計算になっておりまして、なかなか難しい目標なんですけれども、来年さらに強くなってもらうために、さらにチームがもっと一つになってもらうために何とか達成出来ればと思っております。毎月天皇杯のような戦いっぷりで勝っていただくと突破出来るのかなと思っております。先程、三上強化部長の貴重なお話などを聞かせて頂きまして、サポカードの寄付でもっとチームへの後押しが出来ればいいなと強く思いました。今年加入しました日本人さながらの声をかけるブルーノ選手ですとか、活きのいいダヴィ選手、語学堪能なカウエ選手のような選手が来年も居ていただける様に、サポカードの寄付で少しは足しになればと思っております。ここにいらっしゃってるたくさんのチームを愛する皆様は既にサポカードはお持ちですか。お持ちかと信じておりますが、もしまだお持ちじゃない方がいらっしゃいましたら是非この機会にご入会をお待ちしております。1月20日から始まりました今回のキャンペーン、サポーターにとってはお馴染みのチームスポンサーの商品を取り揃えてみました。石屋製菓さんからはコンサドーレクッキーと美冬、サッポロビールさんからサッポロクラシック、そして当社からはほくせんオリジナルクオカード4枚セット、いずれかが入会した方に必ずもらえるキャンペーンとなっております。言わばおいしい物ばかり揃えてみたというところなんですけれども、食いしん坊であるサポーターの私も企画させて頂きました。あと、カードに入会いただいた方、3ヶ月以内にご利用とご応募頂きますとほくせん商品券がもらえるキャンペーンもやっております。最初に3万円以上ご利用頂きますと最高3,000円の商品券がもらえますので、チームに寄付、自分に商品券とダブルで嬉しいキャンペーンとなっております、お気づきとは思いますが利用しない手はないですね。ほくせんがくれるっていうのだからもらってしまってください。最後になりますが、こんなつたない話をしている社員もいるほくせんなんですけれどもチームを盛り上げるために、ほくせんサポーターズカードをよろしく願います。ご覧になっていらっしゃる方もいるかもしれませんが、J:COMさんの月曜サポスタで月に一度、ほくせんサポカードサロンを担当しておりまして、来週19日に1月分の新しい金額の報告が出来ると思いますので、もしご覧になれる方はそちらも併せて見ていただくとありがたいと思います。どうなっているか私も分からないんですけれども、いい報告が出来ればと思っております。以上です。どうもありがとうございました。

司会: はい、ありがとうございます。次は札幌インターネット株式会社の石井様、お願いいたします。

石井: 皆さん、はじめまして。札幌インターネット株式会社の石井と申します。この度皆様にご報告がありましてまいりました。札幌市白石区に今年の春、FM白石というコミュニティ放送局が開局します。弊社ではコンサドーレの応援番組の製作を担当させて頂く事になりました。毎週月曜日と木曜日から60分間の予定で考えております。密着取材を売りにしまして、サポーターの方々の声も取り入れていきたいと思っております。一人でも多くの方々に聞いて頂きたいため、インターネットでの同時配信あるいは別途配信を行う予定であります。FM白石か、弊社で行うかはまだ決まっていないんですけれども、一応FM白石の方でインターネット配信する予定となっております。道外のサポーターの方々にも同時にお聞き頂く事が出来ますので、今後ともよろしくお願いいたします。

司会: お話がありましたFM白石という番組、毎週月曜、木曜ですのでチェックしてみてください。長島さん、チラシの件でお願いします。すいません、会場マイクを。マイクを届ける間を狙ってちょっと先にしゃべらせてもらいます。本日の入場者数は180名ちょっとで昨年の7掛け。ピタリ合わせるように寄付金も昨年の7掛けで推移しておりますので、寄付して頂ける方よろしく願いいたします。じゃあ、長島さんお願いします。

長島: 寄付はしました。皆さんこんにちは。今年で回数にしましたら7回目になるんでしょうか。02年10月から本当にひっそりと、もっとコンサドーレを札幌市民、道民の方に知って欲しいと、チラシ配りを始めました。キャッチフレーズとしては、北海道の春はコンサのチラシ配りからってという感じで始めたんですけども、今まではホーム開幕1週間前で行っていました。逆算しますと、今年は3月3日になります。ただ西京極で16時から試合がございますので、そちらにいかれる方が多数いらっしゃると思いますので、出来たらもっと早くというご要望が多数。今年は(J2)開幕の1週間前、2月24日を予定したいと思えますけども、皆様方のご賛同はいただけますでしょうか。(場内拍手) ありがとうございます。180人中、1割掛け位の拍手でしょうか。ご賛同頂きましたので2月24日、予定といたしましては午前11時から丸井一条館前でだいたい1時間位のチラシ配布をしたいと思えます。コンサドーレまだあるの?とか、まだやってんだとか言われる方が多々いますので、そう言う方にもえお知らせと啓蒙を兼ねて行いたいと思えます。それと随分先の話になりますけれども8月位、第3クールが始まる位に今一度。三上強化部長のお話によりますと、その頃にはガンガンガン、トップ3どころかトップで戦っているような勢いだと思えますんで、その頃にも再度チラシ配布を行いたいと思えます。その件に関しましてもHFCのHPのリリース、後はメディア等、それと各HPの管理人さんにもご依頼したいと思えます。合わせて2点、どうぞよろしくお願いいたします。

司会: はい、2月24日土曜日午前11時から丸井今井南一条館ってということで、皆さん万障繰り合せてお集まりください。最後に断幕の中村さん、どうぞ。

中村: はじめましての方がたくさんいらっしゃると思えますけど、時々札幌ドームで横断幕の掲出について、一昨年から係を設けさせて頂きまして。少しでも断幕掲出の簡素化ですとかスピードアップとか、いろんな事をやらせていただいている中村と申します。よろしくお願いします。ご存知の方もいらっしゃるかと思えますけども、私達断幕係が掲出に関しまして何度か打ち合わせをした中、赤黒で札幌ドームを一杯にしたいとか、空いているスペースがあるので何とかしたいとか、どちらが先だったか今ではちょっと覚えていませんけども、現在赤黒の断幕で札幌ドームを順次埋めていっている最中がございます。正式には下地断幕と言いまして、皆さんが掲出して頂く断幕の下に赤と黒で張って行って、なるべく早く札幌ドームを全部赤黒で埋め尽くしたいと切に思っている次第でございます。私共現場主義でやらせていただいまして、その考えにご賛同頂く方に少しずつ募金などを現地で募らせていただいて少しずつ増やしてという状況ですから、もしお気持ちがございますたらと。札幌ドームの断幕掲出は(キックオフの)4時間前。北1ゲートの所に断幕を随分掲げて集まっているのが見えると思えますけども、赤黒で埋め尽くしたいという気持ちにご賛同される方がいらっしゃいましたら随時、係のみかちゃんという非常にチャーミングな女性が管理している

募金がありますので、皆さん是非よろしくお願いします。赤黒下地断幕の件のPRでした。

司会: カンパ金を渡したいという方がいらっしゃいましたら、今中村はじめさんか、腕章をしてる方が断幕掲出の時にいらっしゃいますのでその方にお渡しください。集まったら生地を買って自分達で手縫いをして、また1枚1枚増えてくという形になってます。議事進行が上手くないためにかなり押しております。ここで1回休憩を入れます。質問票を出したい方がありましたら、この休みの時に出してください。こちらの方でチェックしまして先ほどの質問内容でほぼ回答になってるというものに関しては申し訳ありませんが割愛させていただきます。今、後ろの時計で3時25分ですので10分間だけ。3時35分から平川さんのお話を頂戴いたします。よろしくお願いします。

(休憩～平川さん講演:省略)

司会: 平川さん、どうもありがとうございました。お約束ではあと30分で会が終わらないといけませんが、終わらせるような分量ではないので、先程HFCさんの方で答え頂いた質問と重複している質問と仕分けをしました。大変申し訳ないんですが、まず原則的に名前を書いて頂けなかった方に関してはこの場では発表しない。あとでコピーした物をHFCさんにお渡ししますので、そういうご意見があったっていう事は伝わるようにはなっております。それと、名前を書いて頂いた方の中で、ご提案としては読み上げますけれどもこの場で結論が出ないものも、集めた物は全てコピーを取って、後日HFCさんにお渡ししておきます。何部かはこの場でお答え頂くつもりですので、まずお答え頂く部分を読んでいきます。門脇常務の方で答え、私との問答でよろしいですか？

門脇: はい、出来るだけ。

司会: では、長いので掻い摘んで申し上げます。「コンサドーレを応援している人の中でさえ、12ネットに魅力を感じないと考えている人がかなりいるのではないかと考えていますが、12ネットで、配信されるパソコンのスクリーンセーバーやパソコン画面の壁紙に関して、もっと力を入れて頂けないでしょうか」というような話なんですが。

門脇: はい、その意見は以前から伺っておりまして、すでに大きく問題で取り上げております。今いろいろと考え直しておりまして、進行状況については佐藤さん、答えられましたっけ？

佐藤: はい、ドットネットについては、3ヶ月位前から見直し作業を進めております。司会者の方が言われたように、魅力がないというご意見は承知しております。あと1、2ヶ月のうちに、一定程度の考え方をご利用の皆様方にお知らせをする。一方で先程ホームページ等についてのお話をいたしましたけれども、そういったものとの絡みも含めて抜本的な改善策を考えていこうと思っております。もう少し、本当にもう少し時間を貸して頂きたいと思います。

司会: はい、ありがとうございます。次にどんどん移っていきます。丸岡さんっていう方から。「昨年
から宮の沢で練習見学するようになりましたが、その時に気付いた事が一つありますのでお尋ね
いたします。練習を終えてマイカーで帰る選手達のほとんどがシートベルトを装着してない様子で
した。昨年末あたり、児玉社長が交通事故についてクラブで言明したという記事が読んだ事があり
ますが、選手達に具体的にどのような指導をなさっているのかお聞かせください」。

門脇: はい、今初めて聞きましたけど、強化部長答えられますか？

三上: すいません。そのような現実があった事、残念に思っています。昨年までも何回かそういうよ
うな事があって、サポーターや一般市民の方からご報告頂いたものに関しては選手に必ず話をし
てます。こまかい事を言うと、例えば自転車で2人乗りしてましたよとか。プロ選手として私生活か
ら危険な行為をやってはいけない。その中で2人乗り。聞けば、後ろに座席のない自転車で立ち乗
りをしてたって事だったんで、そういった事も含めてあった事に関しては細かく選手に注意しており
ます。シートベルトに関して一度選手会の方に投げかけておりましたが、現実問題まだあるんだな
と今認識しましたんで、改めて選手会と話をして、きちんと選手全員が出来るような形で進めたい
と思います。

司会: はい、お願いいたします。子供達に夢を与えるスポーツクラブですので、そういうコンプライ
アンスな、いわゆる法令遵守の部分では率先してやらなければいけないと思いますので、宜しくお
願いいたします。

門脇: 社員も含めて。コーチ、我々スタッフ、営業で回ったりと社有車がかなりの台数走っている訳
なんですけど、今年に入ってからスリップ事故でぶついたりするのが4件位。人身までは至ってな
いんですけども前がグシャッと。ナンバープレートが潰れたり、そういうような事故があって非常に
危険に思っています。以前から社員には運転免許を全部提出させ、免許の更新などの管理も徹底
しています。豊平警察署から毎日、昨日の事故件数とか実態がメールで送られてきてまして、総務で
各社員にメールで流している。交通に関しては非常に気を遣っております。何が起こるかわかん
ないんですけども、更に気を付けてやる。社長も私も通勤で運転しドキッとすることなくはないので
、より安全運転に気を付けてやっております。

司会: はい、ありがとうございます。次、参ります。宮本さんって方から。「昨年の集会の中で門脇
常務が外形標準課税等のお話をされてましたが、その後実際どのような形になっているのか教え
て頂きたいのでお願いいたします」という事です。

門脇: 外形標準課税は資本金に応じた形で、赤字が出ようと出まいと必ず課税される。現在のとこ
ろは、昨年とほとんど変わらない課税を課せられるものと認識しております。先々週国税の監査を
受け、ピタウ、ウリダの移籍金とか給料について詳しく監査を。特に外国人の移籍について深く追
求されております。住宅あるいは車の補助、家族の呼び寄せ費等も源泉に入るかどうかという事

も含め、受けております。特段大きな従価税が出るとは思っておりません。予算通り外形もトーマツに合わせてやっておりますので問題はないと思っております。

司会: ありがとうございます。つぎ山本さんからです。「去年、北海道後援会の立て直しを行うっていう話がありましたが、その後どのようにになりましたでしょうか、お聞かせください」。

門脇: はい。これについては佐藤の方から答えさせていただきます。

佐藤: 私共とは違う組織ではあるけれども、実態として私共の中に後援会事務局があるという意味では非常に深い関係がございます。北海道後援会(長は)空席でございましたけれども、昨年堀前知事に会長をお引き受け頂き、ご意見等もいろいろ参考にしながらやっております。これまで改善した中の一つを。運営理事会は発足以来いろんな連合だとか小学校校長会だとか、そういう組織の長を当て職で理事にしておりました。けれども、地方後援会の声をお聞きしましたところ、我々の声が北海道後援会に反映されてないのではないかというご指摘がございまして、地区後援会をエリアに分け、この中からそれぞれ運営理事を出して頂いております。地区後援会代表の運営理事が4人程新たに加わりましたので、組織内の議論もより活発になってきているという実感はございます。それから4月以降、後援会も多少、特典等見直しをしております。例えば後援会にお入りになるとグッズか割引券を選択。これは両方提供しましょうとか。堀会長が非常に熱心に提案しておられるのは食育会員の拡大で、いかに増やすのか努力を始めようとしている所でございます。それから小中学生のジュニア会員。今年から年会費2,000円を払って頂ければホームゲーム全試合、無料で観れるという特典も新たに加えました。こういうような事をしながら何とか後援会会員を増やしていきたい。正直申し上げまして、まだ低迷しております。一時、年間8,000万円程のご寄付を頂いておりましたけれども、このところは600万円。去年は1,000万円頂きましたけれども従来のようなパワーにはまだ戻っておりませんので、大きなテーマだと思っております。是非皆さん方もご紹介して頂ければ有難いなと思っておりますので宜しくお願いいたします。

司会: ありがとうございます。では、その他のご質問を読んでいきます。松橋さんっていう方。「スポンサーをサポーターに周知してもらうための工夫をして欲しい。例えばマッチデープログラムを活用し、別刷りのクーポン券などを挟んで、季節に合わせてスポンサーさんのチラシを挟み込む。例えばお中元、お歳暮、引越しシーズンなど、サポーターがスポンサーを利用する事で、また来期もと思って頂くようにホームゲームの際に、スポンサーブースを設けてスポンサーさんに活用してもらうなどのアイデアも考えてください」という具体的なご意見がありますので、後日HFCさんにお渡ししておきます。下の方に「JALがいろいろ大変なようで、門脇さんの事が心配でなりません。(会場笑い)大丈夫ですね?」って書いてるんですけど、大丈夫ですか?

門脇: ありがとうございます。本当に私も、どっちに転んでも危ないような状態になっておりまして。まあ、何とか時代の流れに沿うように頑張っていきたいと。一つでも多く日本航空をご利用くださいますよう、宜しくお願いいたします。

司会: はい、ありがとうございます。あと、お名前書いてある方でも一部重複する方がいらっしゃると思います。柳下監督の退任うんぬんに関しては先程ご説明がありましたのですが、まだご納得を一部頂けてない方がいらっしゃるのかなと。解任か退任かという事も再度書かれていましたが、割愛させていただきます。「三上さんの話、分かりやすかったです。もっとメディアに露出してください」と。(会場笑い)これも中川さんっていう方。「土曜の札幌ドームの試合をナイターに出来ないものか」とありましたが、先程もスカパーの試合の関係があるという事でお話がありましたので、一応コピーして全部直筆の原本をお渡しますが、この場では割愛させていただきます。あと、原さんからは、チケットの価格と座席の種類に関して具体的な提案があります。今ここで読み上げてもお答えも何も出来ないと思いますので、HFCさんの方にお渡ししておきます。今年度の強化費と補強について。これはお名前がないので読みませんけれども、1億円削減になるという報道で心配してたけども、先程の話を聞いたらそうでもないみたいだというような内容が書かれてあります。次も先程と重複。すいません、西が丘の件です。次、「出場出来ない選手の試合観戦について。若い子が多いので、自由参加ではなく強制にして欲しい。また、観戦する場合のマナーが悪い。私服ではなく、せっかく素敵なジャージ、Kappaさんが提供してくれるのを着用したらいい。未婚の選手の彼女を連れてくるのも如何なものか。エリアももう少し狭くて、纏まって観て欲しい」という意見があります。三上さん、どうでしょうか？

三上: 選手のホームゲーム観戦は義務付けという事で、すでに今年度に関しては監督含めて話をしています。今年の選手会代表がまだ決まっていないので、ベテランと言われる4名の選手に、ホームゲームは全員試合を観ると。何故なら、どういうサッカーをやろうとしているのか皆で意識していなくていけないからと。そういう事を話し、その4人の選手から全選手に行き渡って、その後集約したものが僕の所に戻って来る形になっているのが現状です。あと、観戦のマナー的な部分。僕も昨年何度か同じような意見をお聞きしました。その都度、該当する選手には注意してきましたんですが、マナー、服装および同伴する相手に関してもベテランと言われる選手に投げかけているのが現状です。ただ、全てクラブがこうしなさい、ああしなさいって言うのは決して良い事ではなく、一つになるためにも話し合いが必要だと思っています。今その話し合いが出来るようにしている段階なので、まだ選手全員には浸透していません。選手会がそれに対してどう思っているか、回答が来ていない今の段階では何とも言えないんですが、クラブとしてはそのように考えているという事です。

司会: はい、ありがとうございます。続いてまた、三上さんが関わるんだと思いますけどもウンノさん、山本さん、ナガノさん、他にも4つ位ありますけどもサテライトリーグ参加、不参加の件について聞きたいというご意見がありますので、お願いいたします。

三上: 回答から申し上げますと、参加いたします。昨年のブラジル出張時、ネットをいろいろ見るとサテライト撤退かと皆さんご心配したっていう話を社員や佐藤尽から電話で聞いていました。皆様方にクラブとしているんな所でお世話になっているとお礼を申し上げているんですが、そういった

ところでも皆さんの力は非常に大きくて。サテライトのアウェイ費用は他チームと比べたら確かに大きい。サテライトのホームゲームの入場料収入で賄っているのが状況で、これもひとえに皆様方が時間、お金を使って来て頂いている結果。サテライトを辞めてしまったら収入もなくなってしまうという事で、クラブとしては良い事が一つもないのが現状なので、今後とも若手選手の育成の場として参加して行こうと思っています。それが出来るのも全て皆様方、サポーターのお蔭だと思っています。

司会: ありがとうございます。サテライトは、サポーターは必ず観に行かんといけないって事ですね。行かないと選手がアウェイに行けないという事になりますんで、宜しくお願いします。あとダヴィ、カウエが半年契約の理由を聞きたいっていうのが何件か来ております。ナガノさん始め何名かです。お願いします。

三上: はい。過去、素晴らしい外国人選手に出会った事もありますし、残念ながらそうでなかった時もあります。いずれにせよクラブとして今後もいい意味でプラスαに出来る契約形態が必要ではないかと、僕が携わった8年間で思っていました。今回、半年契約にしたんですが、彼らであれば何とか1昇格の力になってもらえるんじゃないかという事は前提としてあります。ただ、彼らのパワーを生み出すにもハングリー精神は絶対必要です。2人が活躍してくれる事が一番の願いです。一番考えている事ですけども、私の立場としてはリスクマネジメントも考えなければ行けないと。今回こういう契約になりましたのは、彼らが所属していたビトリアっていうブラジルのチームとレンタルという形じゃなく、今最終段階ですけど業務提携で話をしています。彼らはまず半年で、思い通りの活躍となれば今までの給料通り残り半年働く事になる。ダメであればビトリアから同じ値段で新たな選手を獲得っていう方向で、話を進めています。ただ、一番大切なのは半年という中で彼らがコンサドーレ札幌で活躍してくれること。彼らもすごく危機感を持ってやっています。余談になりますが、先程報告した通り川崎フロンターレと荒れたゲームになりました。あまりにもダヴィ、カウエが厳しく行くもんですからジュニーニョがポルトガル語で、お前らトレーニングゲームなんだからそんな激しく来んなよと言ったところ、彼らはなんと「俺らにとってこれはワールドカップなんだ」と。(会場笑い、拍手)「半年契約なんだ。死ぬ気でやんないといけねえんだ。そんな時に怪我も何もあったもんじゃねえ。戦うんだ」という事をジュニーニョに直接言ってみて、そういった気持ちでやってくれる事を嬉しく思いました。ポルトガル語でちょっとしか分からなかったんですけども、後からブルノ、ウリセスに聞いたらそういう事を言ってたよと聞いて、その夜はスタッフ含めて笑い話じゃないんですけども明るい話だなと。いかなる場合においてもクラブがメリットを持てきちんと計画通りやれる準備をするために、今回半年契約にさしてもらっているという事をご理解頂ければと思います。

司会: はい、ありがとうございます。じゃ、次参ります。「厚別競技場は私の好きなスタジアムであります」うんぬん書いてあるんですが、「厚別に移動式のオーロラビジョンがない」と。この提案を書かれた方の会社では「映像車の運営に携わっていて、1回のイベントで5万か10万位でレンタルできます」って書いてるんですがお名前ないんですね、残念な事に。もしよろしければせっか

くHFCさんの方がいらっしゃいますので、今日の帰りまでに名刺交換をして頂いて。そういう提案でしたらどんどん出して頂いて、必要であればまたご検討頂くって事でお願いいたします。「ドーム限定のシーズンチケットがあるんですから、厚別限定のシーズンチケットも考えてみて頂けますでしょうか」というご提案。あと「パーソナルスポンサーが減っているように思いますが、何か対策はお考えでしょうか。お答え出来る範囲で結構ですのでお願いいたします」って事なんです、お願いします。

門脇: はい。パーソナルスポンサーは、確か微減だと思います。年間700、800万ですけれども、今年は天皇杯の影響かどうか、昨年対比では比較的多く入って来ております。是非1,000万円目標でやりたいと思いますので、今後とも宜しくお願いしたい。そんなに減ってません。今、少しずつ増えつつありますが、是非ご協力の程。また、サポートシップスポンサーも、ほとんど継続して頂いております。これも更に増やしたいので、お近くのお店屋さんとか、ちょっとゆとりのある方があれば是非52,500円、税込みで宜しくお願いします。

司会: ありがとうございます。次、星野さんから。「ホーム最終戦のサンクスウォークでは、選手がダラダラ歩いていた、ポケットに手を突っ込んで、手を入れながら歩いていた、私にとっては不満でした。カラーボールにサインしたボールを投げ込むなど、もう少しサポーターサービスをしてはどうかと思います」。これは、ちょっと検討してみてください。それとユースやジュニアユースについて、「地下鉄内でのマナーが悪い。子供達ではあるが、コンサドーレの看板を背負っている自覚を持たせて欲しい」という意見が来ております。三上さん、どうでしょうか。

三上: それ同じ方なのか、同じ時期なのか不明ですけども、昨年会社に直接ありました。私、強化の方なので、育成の方と直接あしらうこうして事はないんですけども、この件に関してはたまたま事務所にいた時で、四方田と今の育成部長の森下と丁度いたもんですから。確かU-15の生徒で、態度が悪い、近くにお年寄り方がいたにも関わらず席も譲ってなかったよというような趣旨の報告でした。これに対し、森下と四方田が中心になって、それではやっぱいけない、サッカー選手である前に学生として、その後ひとりの大人としてやっていく為にもきちんと話をしていこうという事で、その日の練習の後に選手の方には話をしたというふうに聞いております。その後また今のような事があったのかまでは確認出来ないんですが、U-18の監督、当時U-15の監督と話して、そのような対応をしております。

門脇: この件に関しては、本当大変申し訳ございません。その都度注意はしております。ジャージにはスポンサー名が乗ってるもんですから、その企業にクレームが行った事があって、我々も大慌てした事がある。出来るだけ恥ずかしくないよう注意はこれからもやっていきたいと思います。また、お気付きになったら遠慮なくその時点で注意して頂ければ幸いです。

司会: はい、ありがとうございます。今もお話がありましたように、叩いたり怒ったりしたらダメですけども、ちゃんと大人として子供を諭すように、その場で注意してあげる事は構わないと思います

ので、もし見かけたら、我々はコンサドーレのサポーターで応援してるんだけど、君達それはいけないよという事をきちんと諭して上げる事は必要なのかなと思います。皆さんも、子供達の親の気持ちで接してあげて頂きたいなと。あと、提案ですが、「厚別での6月2日京都戦、6月14日徳島戦、14時キックオフ。いずれもドームで18時より日ハム戦があり、両方のファン、スポーツ観戦を好きな人をターゲットに、その日どちらでも入れるコラボチケットの販売や厚別・ドームへのシャトルバスなどの運行を検討をしてみては如何でしょうか、一つのアイデアとして提案させていただきます」ってというようなものがあります。ご検討ください。選手のボランティア活動に関して、「もう少し積極的に、いろんな施設の訪問やサイン会などに参加させてはどうでしょうか」というご意見もごさいます。それから「去年、収入の柱になればと話していたコンサオフィシャルブログに関して、実際のどの位の収入があったのでしょうか。もし差し支えなければ教えてください」。山本さんからです。

児玉: 収入について。この一年間でウェボスさんから約150万円の還付金を頂きました。これは売り上げの何パーセントをHFCに戻すという契約になってございます。それが150万円に達したという事です。ブログの運営に関しましては、私共は一切何もしておりません。全部ウェボスさんが運営して広告を集めて、広告のかなりの割合を頂いてるという事です。それでよろしいでしょうか、ブログの収入については。

司会: ありがとうございます。ご質問された山本さんも、お分かり頂けたと思います。掻い摘んで相当飛ばしましたが、今ここにある位の質問が来ております。全てコピーして、後日HFCさんにお渡しいたしますので、一応質問に関しては一通り終わったと考えてよろしゅうございますでしょうか。いいですか？ よろしければ次、サポーター同士の話し合いの方に移らせて頂きます。

門脇: 斉藤さん。

司会: はい。

門脇: 今までのまとめとしてちょっと、社長の方からご説明ございます。

司会: はい、よろしくお願いします。

児玉: 長時間に渡って、大変貴重なご意見頂きまして本当にありがとうございました。若干付け加えますと、サテライトに関してのお願いですが、1,000円でチケットを販売しております。今数字を持って来なかったんですけども、その収支が100万円のマイナス。一試合で250人増えますと、簡単に100万円をオーバーします。今年もたぶん4試合。鹿島、仙台、千葉、柏、この区分けになると思います。まだ正式には決まってないのでオフレコと考えて頂ければいいと思います。今、策定中です。ですから、多分楽しいサテライト戦になると思いますんで。去年の実績が一試合あたり1,200人程度。一試合だけものすごい雨の日があって500人位しか入らなかった。一試合平均で1,500人入って頂けますと、十分プラスに転化できますんで、お友達を誘って来て頂きたいと

思います。更にお願いで言えば、やはりチケット収入。どうやって増やしていくかを、今いろいろありましたようにやっています。仙台が6億円の収入を上げてますよね、興行収入で。私共が4億円。あと2億円積み上げる事は十分可能だと思っています。そうすれば、道庁、札幌市からの(補助金に関する)2008年問題も自動的に解決すると。こんな楽観視はしてるんですけども、一試合一試合頭を悩ませながら増やしていきたいと思っています。何とか6億円レベルに到達して行けばいいなというふうに思いますんで、お友達を誘って頂いて是非。一人のサポーターが一人の新しいサポーターを作って頂きたいと、そんなふうに思っております。これが何より私共コンサドーレを強くしていく方法だと思っていますんで宜しく願いいたします。以上です。本当に長時間ありがとうございました。

司会: どうもありがとうございました。それでは、サポーター間の検討事項。一番最後のページになりますが、入って参りたいと思います。今回の対HFCさんへもそうなんですが、対サポーターに対しても。(HFCに対しては)あの選手を何故切ったのかとか何故この選手を完全移籍させなかったのかとか、またあの試合で何故この選手を使わなかったのかとか。そういう事まで入れられてもお答えのしようがない。どの選手を補強するかわからないというのは基本的に強化部の専権事項でありますし、あの試合でこの選手を何故使わなかったかとかって事に関しましては監督の専権事項でございますので。お名前も書いて、大変丁寧に書いて頂いている内容も多々あるんですが、その件に関してはお答えをご遠慮させて頂くしかないという事でご理解頂きたいと思います。中には、コンサがお金に困っているのならファイターズに分けてもらったらどうですかっていうのも。あまりにも掛け離れた意見ですので割愛させていただきます。で、今回件数が多かったのがブーイングに関してです。まず高橋さんからのご意見。これは前もって投函されてるものですが、「いつもUSの皆さんには感謝しています。でも応援中、不必要なブーイングが多すぎるのではないのでしょうか。特に拡声器のサイレンの不快音などがあります。応援に徹する事は出来ないのでしょうか」というご意見であったり、「太鼓の叩くサイクルを少し短くして欲しい。それによってもう少しメリハリのある大きな声を出せるのではないか」というアラキさんのご意見。それからツジさんっていう方のご意見で、「アウェイチームが練習で入場する際に、コンササポからブーイングがされます。あれは止められないのでしょうか。サポのリーダーにお願いしてもらえないのでしょうか。私の友人もあれが嫌で、来るのを辞めたりアウェイ側に座ったりしています。コンサ独自の暖かいお迎えをしませんか? 昨年、愛媛のチームがコンササポーターに練習前に一列に並んで挨拶をしたのは感動しました。せっかくグッチーさんがアウェイチームに、ようこそと言って一般観客から拍手が沸くのですから暖かく迎えましょう」。あとはブーイングに関して。これはメールで頂きましたが、「会場の雰囲気が悪くなればスポンサーが撤退し、チーム存続に関わる事態となるという事も考えられます。相手を拍手で迎えて驚かせる位の大きな気持ちを持てば最高だと思います。どこかの真似をして馬鹿みたいにブーイングするより、拍手で迎える札幌スタイルをアピールしては。アピール出来れば嬉しいですね」というご意見。「試合前の相手に対するブーイングは会場の雰囲気を悪くするばかりか大人としてみっともないし、礼儀に反すると行為だから止めようと発言したかった」というような内容も書いてあります。あとは、「一部の人から聞いたのですが、ブーイングはHFC公認だとか、またはゴール裏をわざと殺伐とした雰囲気にしたいとか、と考えてるという事も聞きます」とい

う内容も書いてあります。ちょっと、これは、推測の域を出ないでしょうけども。えーと、USの方、誰か来ていらっしゃるんですか？　こういうご意見もあるんですが、USはUSなりにブーイングしてるのにはいろいろな理由があって。この件に関して自分達の考えを表明して頂ける方いらっしゃいますでしょうか？　はい、お願いします。

上村: 上村といいます。宜しくお願いします。毎年言われてまして、大変申し訳ないなっていう気持ちはあるんですけども、ブーイングを何故するのか分かんない方っているのかなっていう気がするんです。敵と味方に分かれてて、こちらとしては敵を迎える時の当然やるべき事だと思ってまして。相手がやりづらいようにするのが僕らの仕事であって、仕事っていうか好きでやってるんですけども。それを去年愛媛で相手の選手が来てこちらに挨拶されて。ゴール裏でも結構拍手があったんですけど、その時点で愛媛にとってはアウェイではない訳ですよ。やりやすい環境を向こうから作って、こちらも応えてしまったら、もうイーブンな試合会場になってしまう。そうだったらホーム＆アウェイでやる意味がないと僕らは考えているんですね。で、いかにこっちのホーム感、向こうのアウェイ感を出すのかっていうのが、サポーターの役割だと僕らは思っていて。そういう事に関してブーイングを止めて欲しい、雰囲気壊れるって事に関しては、考え方にだいぶ隔たりがあるのかなと思っています。以上です。

司会: はい、ありがとうございます。というのが今現在ブーイングをしている方々の考え方で、こういうのは両方聞かないと何とも言えません。それもそれで何か一つ筋は通ってますよね。いわゆるホーム＆アウェイっていうルールの中でやってる訳ですから、乗り込んで来た時点から敵地なんだよと。敵地の雰囲気をやっぱり醸し出すための儀式であるというふうな。

上村: 付け足していいですか？

司会: はい。

上村: 先程話があったんですけど、グッチーさんからアウェイチームを迎える言葉があって、それに対しても我々がブーイングしているっていうのは、はっきり言っちゃうとスタンダードな事なんで。それに対してどうかと言われても困るんですけども。どこでもやってるよって言うてはいけないのかもしれないんですけども、サッカーではそういうもんだよっていうのを分かって頂ければ有難いなっていうふうに思います。以上です。

司会: はい、ありがとうございます。皆で拍手で迎えて、今まで誰も考えつかなかったような札幌スタイルを構築するのも一つではないかご提案もありましたけれども、この辺はまだまだ皆さんで揉んでく必要があるのかなと。どちらが正しくて、どちらがまずいとかって問題ではないと思いますので。そういう方々が自分の意思を表現するという意味で、ゴール裏で拍手で迎えられても、それはUSが止めれとねじ込んでいくような事でもないでしょうし。分裂応援って形は好ましくはないとは思いますが、自分の意思表示としてある方はブーイング、ある方は拍手で迎えるというのがあって

も、これがまたいいのかなっていうふうに思います。今年はブーイングに関して、それから拡声器の不快音。あのサイレンのどこを押すような音に関して非常に不快だとか、ハウリングを起こしてとか、テレビで聞いててもとかの内容が来てました。その辺に関してのご意見、上村くんの方はどうでしょうか。

上村: 僕はやってないんで、やってる方が話して頂ければ有難いんですけど、います？ パシッとやってください。

司会: あ、いるの？ はい、お願いします。

ウエノ: ウエノです。どうも、すいません。トラメガ、確かに耳障りなものも分かるんですけど、やってるのはブーイングと同じように。僕らは札幌っていうチームを本当に好きで愛してます。僕は敵を暖かく迎え入れるのは、ホームでは全く考えていなくて。ホームは札幌の雰囲気を出す、本当に札幌に有利になるような応援をしたいと思う訳なんです。別に敵の人達に対して拍手をしようと思わない。どうしてかって言ったら札幌が好きで、どうしても札幌に勝って欲しい。それで選手達が本当にやる気になって、絶対札幌では負けられないっていうような気持ちで戦って欲しくて、札幌の雰囲気を出すんですよね。ブーイングと同じでやっぱり敵は憎くい訳で、僕らが勝ちたいと思ってるんで。だからホームの雰囲気作りっていうか、そういうのでやってるんですけど。試合になるとちょっと熱くなっちゃうんで、それでいろいろとやってしまいますね。

司会: はい。C V Sをやられてる方からも来てますが、「ホイッスルその他は試合中で使えないという規制ありますけれども、トラメガについては規制はありませんが、少なくともサイレン機能を使ったブーイングは止めるべきだと思います。」リーグの統一ルールで、ホイッスルの使用は禁止されていますが、これは試合進行を妨げるような紛らわしい音を出してはならないという意味で、禁止されているはず。とすると、サイレン機能を使ったブーイングは、紛らわしい音に入るのではないかなというようなご意見。こういった問題に関して最終的にHFCさんが乗り出してきて、それはダメって言ってしまえばそこで一辺に解決しちゃうのかもわかんない。まあ応援の方法や手法に関して、あまりHFCさんも試合を極端に妨げない限りは介入しないっていうスタンスをお取り頂いてますので、サポーター間でもうちょっと練っていいかなと思います。ただ、サイレン機能を使った不快音のブーイングに関しては相当数来ております。U SまたはU Sと行動を一緒にされている方々は今お話を頂いたようなお気持ちでブーイングをかけてるって事は皆さん分かったかと思うんですが、結構不快に思っているサポーターが多い。ブーイングもそうですけど、サイレン機能を使ったブーイングはご一考頂きたいと。主催者側からもお願いをしたいなと思っております。じゃあ、次に。

渡辺: あっ、すいません。

司会: はい、どうぞ。マイク、お願いします。

渡辺: 皆さんこんにちは。渡辺でございます。昨年、一昨年と、縁ありまして三角山放送局でアウェイ戦を中心にレポートをやっております。ブーイングに関しまして賛成でも反対でもないのですが、情報提供として聞いて頂きたいお話があります。それは選手の声です。実際に札幌に来て、ドームや厚別で戦った事のある選手。私はコンサドーレ札幌っていうチーム、ホームの雰囲気は非常に高いチームだと思っております。逆に言うと相手の選手からはここはアウェイだな、やりにくいなと思うようなクラブであると思っているんですけども、ブーイングに関してはどうかと。選手によっては、いくらブーイングをしても屁のつっぱりにもなっていない選手も中には確実にいます。やっぱり今年J1にいったアイツですけどね。それから本当に真後ろからめちゃくちゃなブーイングをやっても動じない、ブーイングをすればする程プレーが冴えるってゴールキーパーもいました。これもJ1に行きましたけどね。中にはそういう選手もいると。それから、かつて厚別で苦い経験をした選手で今評論家として活躍している、はっきり言っちゃうと中西哲生なんですけれども、彼は昔の厚別の方がアウェイを感じたと、確かにこう言ってます。これ、僕が実際に話を聞いたり見たりといった中での一つの情報提供ですので、これも合わせてお考え頂ければと思います。

司会: はい、一つのご意見として承っておきます。この件に関してサポーターの間で話し合っ欲しいという意見が多かったので、あえて時間を割きました。USが応援の全ての責任をしょってみたい言い方をしてますけども決してそうじゃなくて、たまたまUSが今現在は現実的に音頭を取ってるって関係上、サイレン機能を使った不快音に関してのみ、もう一度ご一考頂きたいという事をお持ち帰りください。次に参ります。毎年出てくるんですが、サポーターの応援歌をこうして欲しいというようなご意見がありますが、申し訳ありません。去年も同じ事を言ったと思うのですが、自分で作曲したものをUSに持ち込んで提案されるなり、何なり。そういうチャレンジをしてみてください。サポーターズ集会の席上で応援歌の歌詞から曲まで決める時間は多分ないと思いますので、宜しく願いいたします。それから、青木さんから「敵チームの応援幕のスペースが広すぎる。もっと狭くするとか張れる枚数を限定するとか、とにかく相手がやりにくい環境にして欲しい」というような内容ですね。あと、「アウェイの断幕の掲出範囲は狭くなっているんでしょうか。どう変わったんでしょうか」という事ですが、中村ハジメさん、その件に関して。マイクお願いします。

中村: ご指名頂きましたんで。私の記憶が間違っていなければ、昨年サポーターズ集会でHFCさんにアウェイ側の断幕スペースを少しホームチーム側に譲って頂けませんかのご提案させて頂いて、心良く受けて頂き、そのために先程申し上げたスペースが埋まってなければいけないという事もあって赤黒断幕に発展した経緯だと思いますけども、スペースは確実に広がっていると思います。

司会: 誤解がないように。ホームのサポーターの張るスペースが広がって、アウェイのサポーターのエリアが狭くなってるという事です。それによって試合によっては歯抜けになり、何も張らさってない所が出てしまう。せっかくHFCさんがスペースを我々にさいて頂いたのを埋めるため、断幕を張られてる方々がお金を出し合って、あの赤黒の帯状の下地断幕って呼ばれる物を作り始めたという事です。ですから確実に広がってはいると。運営の方からそのスペースはサポーターの権利

として、今のところ頂戴しておりますって事です。後は、「シーズンチケットを買った特典の招待券を夕張の子供達や学生にプレゼントしてはどうか。サポーター有志の方で検討してみてください」。この優待券はどっかのMLでやってましたよね。やってませんでしたっけ？ 皆さんの持っている株主優待券だとかを、どっかのメールリンクで集められてる方、お名前は失念したんですけどあったと思いますけども。(場内から発言)実際、今までやってられてた方ですか？ マイクお願いします。

発言者:あの企画は2001年から始まったんです。最初は札幌ドームで始めて。確か横浜F・マリノスと戦った時だと思いますけど、その時にやりました。ただ今年については、まだ不明確な部分があります。というのは昨年やった時にHFCさんの好意、間違いなく好意なんですけども足りない分をHFCさんが出してくれるという事で児玉社長さんからお話があったようなんですよ。ですので、集めるとなると集めた人に不公平が生じるんじゃないかと。要するに自分達がせっかく、自分が持っていたら自分で入れるチケットが、HFCさんが出してくれるとなると不公平になるんじゃないかと。こういう話も内部では出てます。ですから今年度以降やるかどうかは不明確な部分もあります。僕は責任者ではございませんけども。

司会:あ、そうですか。

発言者:はい。

司会:運営には携わっていたんですか？

発言者:まあ、携わっていました。

司会:そうですか。はい、分かりました。じゃあそういうような形で、今年度も継続があるかどうかは別だそうです。ただ、今まではあったやに聞いております。最後に河野さんっていう方から、「サポーターズ集会での休憩時間を増やして欲しい。集中力がきれそうです」というご意見がありました。出来るだけ、来年からは心掛けるようにいたします。予定時間を25分程オーバーしましたが、これで今年度のサポーターズ集会の議題が全部終了いたしました。ちょっとお待ちください。社長、すいません。佐藤さんは取締役役に就任なさったんですか？ 執行役員から。

児玉:はい、取締役です。

司会:取締役役員ですか、すいません。ここの名札、掲出物が間違っているとご指摘がありました。申し訳ございません、我々の不勉強でございました。大変失礼いたしました。申し訳ございません。それでは恒例のコンサドーレコールを上村さん、誰かご指名頂けませんか？ 誰？ こっちでやれて？ 誰かコンサドーレコール仕切って頂ける方いらっしゃいませんか？ 海野さんは？

海野: 何で？ 俺が？

司会: 俺、声ひっくり返ったらかっこ悪いっしょ。ちょっと出て来て。

海野: 俺？

司会: ええ。(会場拍手)フラッグ仕切っている人がやります。ちょっと、練習する？ 外で一回。

海野: 時間押してるし。

司会: それでは皆さん、ご起立ください。コンサドーレコール、3回で終わりにいたします。

海野: マイク使わないほうがいいよね。じゃあ、すいません。宴たけなわではございますが、今年絶対昇格するぞっていう気合も込めてやらさせていただきます。

(コンサドーレコール4回)

ありがとうございました。(会場拍手)

司会: どうもありがとうございました。これでコンサドーレ札幌のサポーターズ集会2007を終了いたします。ご協力、どうもありがとうございました。

(以上、敬称略)

本記録は、発言者のニュアンスが極力伝わる形でその内容を要約したものです。

〔文責：齋藤〕

ご意見・ご感想等は、こちらまでお寄せください

<mailto:consa-server@freeml.com>

< 開催概要 >

日 時 : 2007年2月11日(日)祝日
12:00 ~ 17:50 (11:30開場、18:00閉会)

場 所 : 札幌コンベンションセンター「SORA」107+108連結会議室
(札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)

参加者数 : のべ 230名

来 賓	: HFC代表取締役社長	児玉 芳明 様
	同 常務取締役	門脇 徹 様
	同 取締役	佐藤 邦興 様
	同 強化部部長	三上 大勝 様
	同 運営部部長	石井 亮 様

報 道 : 例年通りの報道各社に連絡

主 催 : 「コンサドーレ札幌サポーターズ集会2007」運営有志
(齋藤孝、本間英忠、山崎徹、千葉一博、中川雅裕、平松一弘)

運営協力 : < 会場係 >

山崎徹、高森しずか、久保雅計、根田一恵、松本明美、松本雅幸

< 記録係 >

後藤泰子、鎌田貴子、熊野亜希、渡辺恵子、

< 受付係 >

山崎由里子、本間陽子、松村眞由美、齋藤恭子、

< 進行 >

本間英忠、中川雅裕、平松一弘

司会進行 : 齋藤孝

内 容 : 別紙議事録(要約)、プログラム参照

費 用 : サポーターズ集会2007入出金報告参照